

第7回静岡市・清水市合併協議会

会 議 次 第

第1部 市民フォーラム

1 開 会

2 会長あいさつ

静岡市・清水市合併協議会会長 静岡市長 小 嶋 善 吉

3 基調講演

演 題：「グランドデザインの意味と役割」

講 師：静岡県立大学 北大路 信 郷 教授

4 発言者選定経過報告

市民フォーラム発言者選定委員会委員長 大多和 昭 二 委員

5 意見発表

6 閉 会

第2部 協 議 会

1 開 会

2 新委員紹介

3 議 事

(1) フリーディスカッション(前回)のまとめ

(2) 市民意見を踏まえた都市ビジョン協議

(3) その他

分科会について

両市主要施設視察調査報告及び今後のスケジュール確認

その他

4 閉 会

<開 会>

事務局 それでは定刻になりましたので、ただいまから始めさせていただきます。

本日は大変お忙しい中をお集まりをいただきまして、大変ありがとうございます。

ただいまから、第7回静岡市清水市合併協議会を開催をさせていただきます。

なお本日は、傍聴要領に従いまして73人の方の入場を許可をしております。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、会議に先立ちまして、本日の進行について説明をさせていただきます。本日の会議は、2部構成で開催をいたします。まず第1部は市民フォーラムということで、あらかじめ公募をいたしました意見発表希望者の中から、市民フォーラム発言者選定委員会で決定をいたしました、本日会場にお越しただいております10名の両市の市民の皆さんに意見発表を行っていただきます。また、意見発表に先立ちまして、静岡県立大学の北大路先生から、「グランドデザインの意味と役割」と題しまして、御講演をいただくこととなっております。そして、概ね3時10分ごろから第2部の協議会に入っていきたいというふうに考えております。

協議会の議事といたしましては、市民フォーラムで寄せられました市民意見なども踏まえまして、第6回協議会に引き続き、さらに突っ込んだ都市ビジョンの協議をお願いをしたいというふうに考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは開会に当たりまして、合併協議会の会長でございます小嶋善吉静岡市長からごあいさつ申し上げます。会長、よろしくお願いいたします。

<会長あいさつ>

会長（小嶋善吉静岡市長） 本日は、お忙しい中土曜日にもかかわらず、委員の皆さんを初め意見発表者の皆さん、そして北大路先生には御参加をいただきましてありがとうございます。

この協議会では、本年度末までに合併の方向性の確認を行うということで、広範な市民参加により、新市グランドデザインを策定していくこととしております。このため現在、都市ビジョンの構築のための活発な議論を行っているところであります。

そこで本日は、「市民フォーラム」と題しまして、市民の皆さんの率直な御意見をお伺いをし、その上で、本合併協議会として、都市ビジョンに関する協議をさらに深めていこうと考えております。

意見発表者につきましては、発言要旨を公募いたしましたところ、皆さんにお配りしてあると

おり、43名の市民の皆さんから貴重な御意見が寄せられました。発表者の選考をお願いをしました。大多和委員を初めとする5名の選定委員の皆さんには、大変な御苦勞をおかけをいたしました。本日は中学生を含め10名の意見発表者の方に会場にお越しをいただいております。意見発表者の皆さんには、日ごろのお考えを率直に発表をしていただければと思いますので、よろしくお願ひいたします。

本日発表をしていただく意見、また寄せられた多くの意見を踏まえて、よりよいグランドデザインを策定していくのが我々の責務であると考えますので、第2部に行います都市ビジョン協議では、委員の皆さんの活発な御議論をお願いをしたいというふうに思います。

最後に、北大路先生には、本日の基調講演、そしてあすから開催いたしますタウンミーティングのコーディネーター役と大役をお願いするわけですが、どうかよろしくお願ひいたします。

広範な市民参加によりまして、合併の方向性を確認していこうという本合併協議会の手法は、我が国の合併協議においては、恐らく例を見ない画期的なことであろうと思っております。そのためには、地方行政分野の第一人者でもあり、市民参加の手法に精通をしておられる北大路先生のお力もいただきながら、協議を進めていきたいと考えておりますので、よろしくお願ひをいたしまして、私のごあいさつとさせていただきます。よろしくお願ひいたします。

事務局 ありがとうございます。

< 基調講演 >

事務局 それでは、本日の基調講演、そしてあすから開催いたしますタウンミーティングのコーディネーターをお願いしております北大路信郷先生を御紹介をさせていただきます。

北大路先生は、昭和23年のお生まれでございます。昭和45年、国際基督教大学の教養学部を卒業されまして、昭和48年、同大学院の行政学研究科を修了されております。そして、平成2年から静岡県立大学経済情報学部の教授に御就任をされまして、現在、21世紀の静岡県を考える会、静岡県地方分権研究会の委員等の公職を多数務められております。

それでは基調講演をお願いをいたしたいと思ひます。北大路先生よろしくお願ひいたします。

< 基調講演 >

ランドデザインの意味と役割

静岡県立大学教授

北大路信郷氏

こんにちは。御紹介いただきました静岡県立大学の北大路と申します。大変高い席から失礼申し上げます。

大変重要な協議会の場にお招きいただきまして光栄に思っております。短時間でございますが、御依頼の内容は、ランドデザインという、大変なじみのないと申しませうか、わかりにくい言葉を使わざるを得なくて使っているのが現状なんです、この意味について、余り理解の仕方に差があると、今後の議論にも差し支えるということもございませうので、その辺のところの御説明、それから、なぜそういうカタカナ言葉まで使ってそういう概念が必要なのかというようなことを御説明してみたいというふうに思っております。

今御紹介いただきましたけれども、私は地方行財政を専攻しておりますが、今やはり一番力を入れて仕事をさせていただいておりますのは、静岡県庁の行政改革、特に政策評価、行政評価の仕組みづくりをするということでございます。

行政の評価をするということになりますと、何よりも重要なのは、もともと計画、実施、評価という、そういう手順で行いますので、当初の計画がしっかりできていなければ評価もできないわけでありませう。何をどれだけ実現するのかということ、計画をしっかりつくって、その手段をきちっとつくってあって初めて評価ができるということになりますので、当然のことながら、計画づくりというところが最初の発端になるわけでございます。

その計画も、県庁のやってる仕事、あるいは市役所も同じでございますけれども、ばらばらな事業をばらばらにやっていたのでは、到底いい成果を出すことはできませんので、大変体系的に整った事業の形づくりが必要でございます。そういう仕組みをつくっていく大元にあるのが、基本的には総合計画と言われているものであります。

総合計画は、ややもすると大変抽象的なことが書いてあるので役に立たない、実際何をするのかわからないというような御批判が間々あるのですけれども、実はそれは総合計画の役割が、これまで余り発揮されなかつた最大の理由は、評価をするということが余り重視されてこなかつたということにございませう。本気になって評価をしようと思つたと、やはり大元になる計画にどうということが書いてあつたのかと。一体、この 10 年間でそれが実現できたのかというようなことを、どうしても考えざるを得なくなります。したがいまして今、全国の地方団体では、この総合計画を今後つくる場合には、これを真剣につくっていこうという動きが急速に広まっているわけでございます。

そういう状況をまず御説明した後、もう1つ申し上げたいのは、私がこちらにお招きいただいたもう1つの理由かもしれないと思っているのは、今、地方分権とか省庁再編成というようなことで、ちょっと皆さんの頭から忘れられてしまったかもしれませんが、今重要な国家プロジェクトの1つに、首都機能の移転があります。今、全国で3つの地域が調査対象地として選定されているわけですが、そのうちの1つは、この静岡県の西部地方も入っているということで、私は、この中部のほうに新首都を持ってくるというための協議会、新首都中部推進協議会の参与として、静岡県を代表しております。

つい先日も、このような会議で、その新しい首都を西部に持ってくるということについての議論があったわけですが、ややもすると、首都が来ると、首都機能が移転されると、どんないいことがあるんだ、メリットは何なのだという議論が中心になってしまうというところがあります。確かに、立法、行政、司法というような機能がある地方にやってくれば、これは大変なインパクトがございますので、それに伴うメリットやデメリットというのは、確かに言えます。言えますけれども、さらに重要なのは、特に今回の首都移転に関する議論をやっている方たち、専門家の方たちの間で特に重要だと考えられているのは、自動的に生じるようなメリット、デメリットのことではなくて、これを機会に何が実現できるかと、このチャンスをどう生かすかということなんです。

自動的に何かを実現するという思想は、全体の半分以下の意味合いしか持たないと。より大きな意味を持つのは、このことをきっかけとして、つまり動かすこと。私どももそうだと思うんですね。引っ越しをするといっても、単に引越すするということだけではなくて、ライフスタイルを変えようじゃないかとか、自分たちの新しい価値観を追求しようじゃないかといって家を変えるほうが合理的でございますね。そういうことで議論をしております、特に重要なのは、例えば、今たまたま東京というところが交通の結節点になってございますので、みんなが陳情にやってくると。飛行機に乗って、新幹線に乗ってやってくると、こういう姿をぷつぷりと断ち切るいいチャンスじゃないんだろうか。もう今のインターネットの時代に、何でわざわざ風呂敷包みを持って陳情に来なくちゃいけないのだろうか。こういうところは、なかなかやめられないけれども、引っ越ししてしまうと、ぷつぷとやめられるんじゃないだろうか。例えば、こういうようなことを真剣に考えて議論しているわけでございます。

というわけで、そういうことをお含みいただいて、今からのお話を聞いていただきたいんですが、お手元の資料で、きょうこの最初のページから下に番号が1、2、3、4と振ってございますが、4ページの次のところ、初めてページ番号が出てこない資料が出てまいります。この1、

2、3、4、5項目、今日の話を手短かにまとめてございますけれども。

まず最初に、ランドデザインはどのような意味なのかということの定義らしいものを書きました。一言で言いますと、法人、一般的には企業の戦略論で始まったものですから、企業というのが普通だったんですが、最近は自治体もこういう戦略論というのを駆使してございますので、広く言うと法人、今回は自治体ですが、これが長期的に実現したい姿、つまり目的ですね、大目的。これと同時に、その目的を実現するための作戦計画、それも大きな作戦ですので、戦略と呼ぶにふさわしいものですが、これは大変重要で根本的な作戦である戦略、これを書いたものをランドデザインというふうに呼んでいます。行き着く姿、我が社はこういう会社に20年後になるぞ。そして、そのためにこういう手順をとるぞというようなことをうたったものがランドデザインと言っているものでございます。

ほんとに、この一番優等生の例かどうかは、それはちょっと私のほうからコメントしがたいんですが、それらしいサンプルを、今度合併協でおつくりになったものがここにございます。具体的には、目的を描いたものと作戦を描いたものから成るのがランドデザインですので、次のページをごらんいただきますと、これが明快に示されてございます。全体イメージとありますが、この中の真ん中の大きな四角な箱の中に、左側には新都市ビジョン、そして右側には、その実現のための計画とございます。まさにこの2つは、ランドデザインの中核的な構成要素ということになります。これをしっかりと書いてみようというようなことで、このチャートができ上がっているのだろうというふうに理解してございます。

前のページに戻らしていただきまして、きょうの御説明の5項目のうちの2番目のお話ですが、ランドデザインというのは基本的にどういう役割を持つのかということなんですが、大変古い大経営学者の言葉に、チャンドラーという方なんですが、この方が「組織は戦略に従う」という有名な言葉を残しております。組織は戦略に従うというのは、私たちいろんな、例えば市役所というのも1つの組織なんですが、こういう組織は手段であるので、目的次第によっていろんな形をとるんだと。逆に言うと、先に手段から考えてはいけないと、こういう警鐘を鳴らしているわけですね。

今、合併ということを皆さんで御協議なさっていらっしゃるわけですが、合併というのは、基本的に政治や行政の仕組みを変えるということになります。仕組み、体制と申しましょうか、仕組みや体制を変えるということですが、仕組みや体制というのは、これはここでチャンドラーの言葉で言う組織に当たります。したがって、目的がわからないのに体制はどれがいいかということとは選択ができないということになります。目的次第によって、どんな組織になるのかとい

うことが決まってくるということでございます。

そのために、言いかえますと、今回行政体制の変更ということをお話しさせていただいてるというわけで、そのために目的と戦略ですね、グランドデザイン、これがはっきりしない限りは、どんな組織にしているのかわからないと、そういう論理がありますので、皆さんの今の段階で、合併の是非というようなことをお考えになる大前提に、まずグランドデザインを考えてみようというアプローチをなさったというのは、私は大変敬服に値すると。まず合併してみようかということをお考えになるのではなくて、先にどういう地域にしていこうかということをお考えになるという手順は、これは大変正しい手順だというふうに理解しております。

今の2番目にお話ししたことが、このグランドデザインの基本的な役割ではございますけれども、そもそも戦略という言葉を使いましたが、行政戦略というようなものがなぜ必要になったかということだけ、ちょっと振り返ってみますと、これまでの経営学とか行政学から、私たちが戦略論ということに目を向けるようになった最大の理由は、余りにも急激に時代の環境が変化するからです。同じことで、ずっと古い考え方でやっていくというのは必ず失敗につながるということなんです。したがって、戦略論ということを考える。つまりグランドデザインというのは、もともと戦略論の基礎用語でございますので、その戦略論を考えるということは、ひいては、まずどういう大きな時代潮流の変化があるかということをお話しすることが最大のポイントになってきます。

言うまでもなく、今の時代潮流、地方自治に関する最大の時代潮流は地方分権でございます。地方分権で何が起ころうとしているかということの認識なくして、グランドデザインを描くことは到底不可能、全く意味がないというふうに私は思います。

今、大変短時間で、地方分権がどういう形をとろうとしているか。これはいろんな大変長い議論になりますが、1つ2つだけ、最も重要なところだけ重点的に申し上げるとすれば、それは財政面での自立性が要求されるというところにほかならないというふうに考えています。

なぜそんなことを断言できるかといいますと、世界標準です。今、日本の政治システム、行政システムは、着々と世界の標準に向かっていきます。イギリス、アメリカで起こっていることが、例えば行政評価もそうですが、日本でもきちんと、だんだん起こってきて、必要だという認識が共有化されてくるわけでありまして。世界標準から見ますと、今日本で、近い将来起こるべき自立的な財政はどのようなものかということ、代表的なものを申し上げれば、格づけが行われる。財政的な格づけが各団体に対して行われる。絶対にこれは行われます。もう既に民間金融機関なんかは、これを研究を始めております。したがって、大変厳しいことですが、何々市は格づけ幾つ幾つと。

AとかBとか記号を使うのかもしれませんが、そういうことが行われる。格づけ、財務内容、あるいは将来性、リスク等を金融機関側が評価して、評価した上で地方債、借金についての回答をくれると。場合によっては危険だから借金申し込んでもお貸しできませんというようなことも起こってくる。これはアメリカでもイギリスでも同じことです。

もう1つ起こるのは、自主課税です。先進国の中で、地方税の税率を国会が決めるというのは大変変わった国であります。どこでも大抵のところは、地方議会が地方税の税率を決めております。したがって地方自治体は、自分自身で大きな政府にするか、つまり大きな税を取るか、それとも小さな政府にするか、税を少なくしてサービスも縮小するか、そういうことを選択権があるのが、ごく普通であります。そういう状況になるし、ならざるを得ないというふうに私たちは思っています。

そうなりますと、何が起こるかといいますと、成果に対して満足しない市民たちは税金を払いたくないと。隣の市と比べて、ほかの市と比べて、このくらいの経費でしか税金でもって、これだけいいことをしてくれている。つまり生産性という言葉は民間では使いますが、少ない資金を使ってより良い成果を上げていると。生産性の高いサービスをしてくれる団体を選ぼうとするのは当然でございます。生産性の低い団体に所属している、まず最初に、それから抜け出そうとする人は、移動することが可能な高額納税者じゃないかと思えます。どこに暮らしていても暮らすことのできるようなお金持ちの方は、まず出ていってしまう。したがって、高額納税者から先に出ていったり、あるいは優良な企業から先にそのまちを離れていくということが出てくる可能性が大変強い。それが現実の状況だろうと思うんです。そういう状況を見据えた上での議論というのが絶対に必要かなと。

実は、第2番目の項目で、グランドデザインの基本的役割というところを御説明しましたけれども、実は最近では、グランドデザインの新しい役割ということについて、随分議論が深まっています。4番の項目でございます。代表的な新しい役割を2つ御紹介いたします。1つはマーケティングという言葉を使います。そこには書きませんでした、マーケティングというのは、「選ばれる仕組みづくり」というふうに訳されています。企業が商品売り込むとき、例えばスーパーに行って、たくさんの洗剤が並んでいるのに、なぜかある洗剤は多くの奥様に選ばれてしまう。これはマーケティングに成功しているんですね。選ばれる仕組みが上手にでき上がっているんです。

実は、この選ばれる仕組みというのは、この競争の時代の地方自治の場合は、まちにも言えるんだというのが最近の議論であります。有名な「地域のマーケティング」という本が出ています

が、これはアメリカの都市の間で、選ばれたまちと選ばれなかったまちに関するレポートが載っている本です。なぜこのまちはどんどん人々に選ばれたのか。選ばれるのは新住民だけではありません。投資家、新しい企業、観光産業、あるいはコンベンションに選ばれるというふうな、そういうまちです。

選ばれる仕組みづくりをする、マーケティングに成功する場合に、幾つかのポイントがありますが、それは何と云っても、外から見てわかりやすいまちであることです。イメージがわかりやすいんですね。統一イメージを持っている。あ、あのまちね、というふうに知られているというまちなんですね。もちろん実際に来てみたら、各種の魅力があるので、ここに住むことに決めた、ここに観光に来ることに決めた、ここで投資することに決めたというのも大事なんです。したがって、魅力が多面的に存在することは確かに重要です。

同時にしかしながら、そのまちは発信能力を持ってなきゃだめですね。外から見て、よくわけのわからんまちだね、イメージのよくわからんまちだねというのでは、到底勝負にならないということで、そのイメージづくりが必要です。そのイメージとか、あるいは売りですね。そのまちにしかない固有の売りと申しましょうか、ほかにない差別化できる何か特別の魅力ですが、そういうものを、実はランドデザインの中に示すことによって、みんなが一丸となって、そのまちを将来売っていく、将来発展させていくということが出来るのだ。ランドデザインというのは、選ばれるまちの仕組みづくりに大変重要な役割を持つのだということが、今大変叫ばれているところであります。

2つ目の大きなポイントは、先ほど申し上げたとおり、納税者たちが自分で地方税の税率を決めるという時代が、もうじきやってくるということになりますと、行政評価をきちっとしていかなければならないということになります。私たち静岡県では、もうその準備をし始めているわけなんです、その行政評価をする場合に、個々の事業は、これまでどういう成果を挙げたかということにのみ目が行ってたんですが、重要なのは、ランドデザインに示されているまちづくりの方向に、どれだけそれぞれの事業が貢献したんだということの評価が、ものすごく重要になってきます。

逆に言いますと、これまで総合計画というのはあんまり参照しなくてもよかった。個々の事業をずっと評価しておけばよかったというものを、そうではなくて、このまちは10年間で、20年間で、こういうまちになろうとしているのだという、そういう大きなデザインを出したわけですから、それに対してそれぞれの事業が、どれだけ貢献したのか。意外に大きなお金を使った割には、この方向に貢献していないんじゃないだろうかというようなことを評価していくということ

が、大変重要なことになってくると。これまで、どちらかというビッグ・プロジェクトが単独でひとり歩きするというようなことが各地に起こったんですが、それは実は、ランドデザインに対する貢献度ということに、余り皆さん関心持たなかった。そういうことに関心を持たないで、外から見て統一的な一致団結したまちづくりをやってるように見えないんですね。したがって魅力的なまちに見えなくなってしまうということになってしまうわけです。そういう2つの代表的な新しいランドデザインの役割について御紹介しました。

最後に、まちの姿というときの「まち」なんですが、基本的には自治体という意味なんですが、2つ全く違う意味合いがございますので、これを両方ともランドデザインをお考えになるときには含めると、勘案するということが重要だと思っております。そこには、市民が構成する自治体と、サービスを提供する自治体という2つを書いておりますが、市民が構成する自治体、つまり何十万という市民たちが、1つのまち、団体、法人をつくってるわけです。法人を形成しているわけです。その法人がいいまちかどうかというのは、ひとえに当然のことながら、市民の方たちが、どれだけ自治能力を持っているか、自分たちで自分のまちを良くしようとする、その価値観を共有しているかどうかということが大変重要です。みんなが自分のことしか考えないと、どんどんごみは捨てればだれかが持っていくということを考えているような住民が住むまちが、到底いいまちになるはずがございません。したがって、ランドデザインの1つの柱は、必ず自治能力をどうやって向上させていくか、どういう面で自治能力の高い地域にしていくかということが非常に重要なことです。

で、将来、自治能力の低い団体は人が逃げていきます。なぜかといいますと、すごく税金が必要になってしまうんです。サービスをもっぱら行政がやらなくちゃいけないということになって、大変負担が必要な自治体になってしまうわけです。これが1点です。もう1点は、当然のことながら、サービス産業としての市役所がございますので、徹底していいサービスを安いコストで提供する、生産性の高い自治体、生産性の高いサービスを提供できる自治体という、そういう目的というのでも追求していくという必要があるかと思っております。その2つのねらいを混同してしまいますと、全く議論がかみ合わなくなってしまうということで、最後に追加させていただきました。

大変短時間で、わかりにくかったかもしれませんが、大変お招きいただきましてありがとうございました。お役に立てれば幸いです。ありがとうございました。(拍手)

事務局 ありがとうございました。それでは、先生は席にお戻りをいただきまして、本来です

と質問をいただくわけでございますけれども、時間の都合で、恐れ入ります割愛をさせていただきます。御了承をお願いいたします。

それでは、引き続きまして意見発表に入っていきますけれども、意見発表に先立ちまして、発言者選定経過報告を市民フォーラム発言者選定委員会の委員長をお願いをいたしました大多和委員のほうからお願いいたします。よろしくお願いいたします。

< 発言者選定経過報告 >

市民フォーラム発言者選定委員会委員長 大多和昭二委員

大多和でございます。今紹介ありましたように、会長から指名を受けまして、5人の委員で、本日の選定結果における発表者の選定会を開きましたので、その点について御報告申し上げたいと思います。

先ほど会長からもありましたように、応募が実に43件ということの、大変大勢の方に御参加をいただきました。事前に私ども5人の委員で内容を読ませていただきましたけれども、いずれも非常に立派な、特に地域への思い入れのある作品といいましょうか、内容だったというふうに記憶しております。

そのようなこともありましたので、7月1日でございますが、井上委員、それから外側委員、田中委員、太田委員、この5人で委員会を開催しまして選定を協議したところでございます。そういう立派な内容をどういうふうに選定して発表していただくかということでございますが、市民フォーラムの趣旨が、本来高度な内容を発表する会ではございませんので、内容はもとより、できるだけ大勢の方に、またいろんな角度の皆さんに参加をいただくということがいいんじゃないかということになりまして、内容の上に、さらに居住地、それから性別、年齢、テーマ、こういったものも総合的に勘案して選考をさせていただきました。その結果が、本日発表される10人の方々になったところでございます。

もともとは計画としては6人でしたが、今のような選定の仕方、あるいは内容から、10人に多くなりましたことについても御理解をいただきたいと思います。

これが内容の報告でございますが、いずれにしても大変大勢の方々に御参加をいただいたこと、それから、そういう参加を求める形でそれぞれの委員の皆さん、また事務局の皆さんが御苦労されたことにつきまして、改めてここで、この場を借りて選定委員長として感謝を申し上げたいと思います。以上御報告いたします。よろしくお願いいたします。

事務局 ありがとうございました。

< 意 見 発 表 >

事務局 それでは、早速意見発表を行っていただきたいと思います。

その前に、進行方法について簡単に説明をさせていただきます。まず意見発表をされる皆さんは、お一人ずつ順番に正面中央の演台から意見発表をお願いをいたします。私がお名前をお呼びいたしますので、順次演壇にお進みいただきまして、そして発表時間、持ち時間は、恐れ入りますがお一人 10 分以内で簡潔をお願いをいたします。

初めに、簡単に自己紹介といいますが、御自分のプロフィール等をお話をいただければと思います。そして、引き続き本題に入っていただければ結構でございます。

発表が終了いたしましたら、再度自席にお戻りをいただきまして、発表者全員の発表が終わるまでお聞きをいただきたいと思います。

なお、このフォーラムは公聴会的に行います。そういった関係で、発表者と委員の皆さんとの意見のやり取りはございません。あらかじめ御了承をいただきたいと存じます。

それでは、意見発表をお願いいたします。

市民フォーラム意見発表者

居 住 地	静 岡 市	清 水 市
若 手 20・30代	こんなまちになって欲しい 海 野 恵 加(女)	渡 辺 久 寿(男)
中 堅 40・50代	新しいまちに望むこと 吉 川 秀 男(男)	こんなまちになって欲しい 磯 谷 千代美(女)
高 齢 者 60歳以上	新しいまちの理想を描く 川 村 恭 一(男) 新しいまちの理想を描く 小 澤 絹 子(女)	明日の清水市のために 『こんな市をつくりたい』 百 々 勇 司(男) 『静清合併後』の新市像(ランドデザイン) 伊 藤 秀 雄(男)
中 学 生	静岡市梅ヶ島中学3年生 (代表して発表します) 志 村 有 梨(女) 岩 崎 万祐子(女)	

< 1 > こんなまちになって欲しい 静岡市・海野恵加さん

海野恵加と申します。よろしく申し上げます。

本日は、小嶋市長さん、宮城島市長さん、そして合併協議会委員の皆様には、私のような者に、このような発言の機会を与えていただきまして、まことにありがとうございます。トップバッターということで、かなり緊張していますけれども、自分なりの意見を精いっぱい述べさせていただきたいと思いますので、よろしく申し上げます。

私は、静岡市、清水市の合併に向け、「こんなまちになってほしい」というテーマで考えをまとめてみました。

私は、生まれてから 25 年間、ずっと静岡市に住んでおります。高校、大学と運よく静岡市内でしたし、現在も市内に勤務しております。ですから、静岡市に対する愛着も深く、今後の発展を強く願っております。そして、そのために合併という大きなハードルを越え、発展の可能性をさらに広げてほしいと思っております。

さて、静岡市は現在、市制施行 110 周年ということで、さまざまなイベントが行われています。来年には葵博覧会も開催されるということで、今から非常に楽しみです。この静岡市の 110 年にわたる歴史を、私はすべて承知しているわけではありません。しかし、私が知っているここ 10 年間ぐらいをとらえましても、静岡市は確実に発展を遂げているものと感じられます。例えば懸案であった静清バイパスも開通いたしましたし、静岡駅南口には立派なホテルがオープンしました。丸子には伝統工芸が体験できる匠宿も、この春に建設されました。東静岡地区には、県の文化活動の拠点となる、このグランシップが建設され、それに伴い、本日利用してきました東静岡駅もオープンしました。ほかにも、世界的イベントとして開催されている大道芸ワールドカップ、装いも一変した静岡まつり等々、変化は目覚ましいものと思います。そして、そのような中での平成 8 年の中核市への移行と、名実ともに静岡県 の 県都としての地位を不動のものにしていると思います。私は、このような変化を大変喜ばしく感じ、そして、今後のさらなる発展を望んでおります。

静岡市は、現在清水市との合併という大きなテーマとともに 21 世紀に向かおうとしています。この合併を考えるに当たり、私は 2 つの面から、新市のまちづくりを考えました。

まず 1 つ目は地域内部の問題。言いかえれば、この地域に住む我々が、いかに快適に生活を送ることができるか、そのためのまちづくりです。そしてもう 1 点は、地域の外部に向かって、どのように魅力を出していくかという問題です。合併により中核市から政令指定都市へと成長を遂げていくと思いますが、問題は、ただ政令指定都市という看板ではなく、その内容だと思っています。

まず1つ目の問題に関して考えると、静岡市、清水市は、既に境界がわからないほどの強い結びつきがあると感ぜられます。私は、静岡市の久能というところに住んでおりますが、150号線をほんの5分も行けば、そこはもう清水市です。この地域は石垣イチゴで有名ですが、ビニールハウスは、もちろん境なく続き、1つの観光スポットとして頑張っております。このような状況を踏まえましても、両市のまちづくりを個別に考えていくのではなく、一体的に考えていくほうが、市民生活の実態に即したまちづくりになると考えられます。

今、重要な課題であると感じられるのは、両市をつなぐ交通の問題だと思います。例えば日本平には屋外劇場や動物園、さらには美術館や図書館など文化的施設が多数あります。しかし、日曜日などの渋滞は目を覆うばかりです。また、バイパスも開通しましたが、清水から静岡市に入るところで非常に混み合います。そこで、合併により両市をつなぐ道路等の交通網の整備が拡充されれば、この地域全体の住みやすさは格段に向上すると思います。

また、このようなハード面だけでなく、ソフト面について考えますと、市民が情報を最大限に利用できるような行政機関の整備が必要だと思います。最近によく、個性化、多様化等の言葉に象徴されるように、社会全体というよりも、その中の自己裁量を重要視するようになってきました。また、この不景気の中にあって、自己責任というものが強く問われているようになってきているとも感じられます。

静岡市には消費生活センター等の情報を発信する機関がございますが、そういった機関の充実が、もっともっと必要であると思います。福祉の問題にしましても、介護サービス等のサービスを提供する機関はもちろんですけれども、市民に情報として行き渡らなければ、利用する側はサービスを知る由もありません。合併により大きくなった分、市民にサービスが行き届かないというようなことがないように、高度な行政のサービスが市民にひとしく与えられますように整備していくことが重要な課題であると考えます。そして、それが新市の目指す究極の姿であると考えます。

さて、次に2つ目の問題。外部に向かっての魅力の発信についてですが、静岡市も清水市も、個々に素晴らしい特徴があると思います。私の住む静岡市を先に挙げさせていただきますと、気候は温暖で素朴な人柄、南北に長い市ですから、南アルプスに代表される豊かな自然があります。また、最初のほうにも挙げましたが、世界的規模で行われている大道芸ワールドカップ等の催し物も自慢です。そして、何と云っても駿府公園や久能山東照宮に象徴される、そういった歴史の深さもある、非常に素晴らしいまちだと思います。清水市も、よく遊びに行きますが、清水港を中心とした港情緒、エスパルスに代表されるサッカーのまち、そして華やかな七夕のお祭りなど

やっています。

合併による新市には、こういった両市のすばらしい特徴が最大限に生かされ、また、さらに新しい色、つまり魅力を持ってほしいと思います。県内のみでなく、近隣の県の人たちが訪れたいくなるような、そんなまちになってほしいです。

21世紀はボーダレスの時代と言われております。国境を越えたさまざまな活動が地球規模で行われていくことでしょう。このような時代の中にあって誕生する新市は、世界の中の有名な都市とも都市間競争を繰り広げていくことになるやもしれません。このような都市間の競争にも打ち勝ち、21世紀にも地域が引き続き発展していくことを祈念いたしまして、私の発表を終わらせていただきます。

御清聴ありがとうございました。(拍手)

< 2 > 清水市・渡辺久寿氏

皆さん、こんにちは。本日は、このような場で発表させていただく機会を与えていただきましてありがとうございます。それでは発表させていただきます。

来るべき静岡地域の分権社会の姿からお話をさせていただきます。21世紀は地方分権の時代と言われています。この時代には、市域の自立が求められてきます。これからの地方は、国に頼ったまちづくりをする甘えが許されません。市域が自立的に、かつ真剣に地域づくりを行っていかなくてはならない時代が来ると思います。

皆さん、江戸時代の藩をイメージしてください。150年前の日本は、中央政府である幕府とは別に、静岡、清水が合併したくらいの規模の藩、駿河国がありました。そこには、課税自主権があり、経済的に自己完結できる社会があり、また地域の特性を生かしたまちづくりをしていました。地方分権社会とはそんな自立した社会だと考えます。

次に、広域的視点から見た都市イメージをお話ししたいと思います。清水市、静岡市が合併した都市を「SSシティ」と名づけ、お話させていただきます。

まず世界に冠たる政令市をつくるという意味で、広域的視点からSSシティをイメージします。清水市、静岡市が合併したSSシティ、これは東京から名古屋、大阪、広島を経て福岡に至る、いわゆる第1国土軸と、上野から長野、甲府を経てSSシティに至る中部横断道軸の結節点であります。加えて、清水の港湾機能を陸上交通と有機的に結びつけた交通拠点として、日本国内のみならず、太平洋を通じて世界に開かれたゲートウェイでもあると言えます。将来的には、陸・海・空の交通機能が揃った、アメリカ東海岸のボルティモアのような、非常に活気のある港湾物

流都市が手本になるように思います。

今年 100 周年を迎える国際港である清水港を、国際交流拠点として生かし、清水、静岡のアメニティを、国際文化発信都市として位置づければ、SSシティは、日本の基軸、世界に開かれた太平洋のゲートウェイ、SSシティとして発展させることができると思います。世界じゅうから、人々が観光やビジネスで訪れ、文化、産業の交流が活発に行えるような都市が実現できれば、すばらしいと思います。学生に国際交流の機会を与え、将来のさらなるまちの活性化に貢献する人材として、積極的に育成していくような教育の場を期待いたします。

また、清水市、静岡市が別々に行っていくよりも、SSシティとして協調して行っていくことのほうが有益だと考えられるような広域事業があります。4点ぐらい挙げさせていただきます。

中部横断自動車道や、第二東名に対応した道路整備事業。有度山丘陵の総合整備、静清流域下水道の整備、東静岡地区新都市拠点の整備事業、これらも広域によって早期に実現されていくべき事業であると思います。

次に、教育的な視点からの都市イメージをお話したいと思います。SSシティは、広域的な視点と同時に、教育的な視点でのまちづくりが必要です。合併によってまちが大きくなったことにより、きめ細かな行政サービスが低下するのでは、合併した意味がありません。むしろ合併によって生じた財政、行革の効果を、むだなく地域に還元すること、バリュー・フォー・マネーの思想が必要です。

さらに、各地域が、合併当初だけでなく持続的に発展するように、住む市民が、地域の特性を理解し、将来にわたったまちづくりをしていく、サスティナビリティの思想が重要視されてくると思います。具体的には、71万人の都市を8万人程度の9区に分け、各区に行政センターを設置します。センターの中には、さまざまな行政サービスの提供のほか、区長の束ねる自治会長数名と行政職員、地域の各団体の代表などを集めたまちづくり会議を設けます。予算も各区に持たせ、地域のことは地域で考えられる自由度のあるまちづくりができるようにしたいと思います。地域のことは、区長さん、自治会長さんに任せ、市議会議員の皆さんにはまち全体の政策を考えてほしいと思います。

特に、これからこれらのまちに求められるものは、1つとして、バリアフリーのまちづくりがございます。障害者や老人、子どもが安心して出かけられるまちづくりが求められています。例えば歩道の段差をなくしたり、段差にスロープをつけたり、公園や病院、行政センターなどが利用しやすいところにつくられ、高齢者や障害者が仕事を通じて社会参加できるような環境整備が必要ではないでしょうか。

次に、人や自然、環境にやさしいまちづくり、地域で出されるごみは、地域で分別、リサイクルをする。公園や道路に緑を増やす。また電気自動車や自転車などの排気ガスの発生しない乗り物を奨励し、環境を考える。また、文化を育むまちづくりとして、例えば祭りの活性化、清水の港まつりの、市民総踊りを南幹線で、清水から静岡までつなげていたり、伝統産業、伝統工芸を次世代につなげる環境づくり、生涯教育の場を市民に提供する。国際交流のできる人材の育成と教育などを考えていっていただきたいと思います。

もちろん、少子高齢化を迎え、各区の予算の税収は苦しいものがございます。しかし、地域ごと抱える問題の中で、何を優先した施策をとっていくか、各区ごとのまちづくり会議の判断に委ねたいと思います。また、NPOやグラウンドワークの手法を使い、自分でできることは自分で、地域で助け合ってできることは地域住民の力で、それでもできないことを行政に援助していただく。自助、互助、公助のまちづくりを実現していきたいと考えます。また、市民、企業、行政がパートナーシップによるまちづくりを推進していくことも重要だと考えます。

最後になりますが、基本的に合併しようがしまいが、自分たちの住む、この静岡県の中部地域の両市が、現在抱えている多くの問題を解決し、これから押し寄せる地方分権の波に押し流されることなく、市民が安心して楽しく快適に過ごせるような活力のあるまちになっていくことが一番大事なことではないでしょうか。

合併協議会において、清水市、静岡市の両市長さん初め、地域の有識者の皆さんが御参加していらっしゃることで、合併是非論が先立つのではなく、お互いのまちがより良くなるための方法の1つとして合併という手段を議論していただきたいと思います。

簡単ではございますが、これで私の発表を終わらさせていただきます。御清聴ありがとうございました。(拍手)

< 3 > 新しいまちに望むこと 静岡市・吉川秀男氏

私、ただいま御紹介にあずかりました吉川と申します。

静岡市内で工業デザインの事務所を営んでおります。出身は石川県金沢市です。静岡在住 28年、この間、地場産業との連携を中心に物づくりに携わる仕事をさせていただいております。今回このような形で、静岡・清水両市合併について意見発表の場を得ましたことに感謝いたしますとともに、これまでお世話になった両市に対して、できるだけ素直に、私なりに日常の仕事の延長のようなスタンスでお伝えできたらと思います。よろしく申し上げます。

市を取り巻く社会情勢、社会環境の中で、今現在最も意識しなければいけないのが、地球環境

の急速な悪化であると考えます。昔、人は自然に従属し、そして順応、やがて征服へと歩んできました。20世紀になり、石油エネルギーや一層の技術革新により、大量生産時代が到来、都市の巨大化、人工化が急速に進みました。その結果、地球規模での環境破壊、環境汚染が発生しています。

静岡市・清水市合併問題を考えることは、新市民の未来の姿を考えること、それは日本の未来を考え、全世界、地球環境をも視野に入れて未来を語らなくてはなりません。現代は、もはや今のままで自然征服を続けていくことが、あらゆる意味で不可能な時代になっています。21世紀には、全く新しい価値に基づく自然観が求められています。その自然観とは、自然の征服によって失われた自然の再建です。自然創造型社会の確立を目指したいと思います。私たちの失なった自然を甦らせ、かつその過程で、理想とする、地球の自然と共生する都市のシステムを確立したいと思います。

しかし、ここで理想の前に立ちはだかる現実の一面を見据えなくてははいけません。6月27日の朝日新聞に掲載された記事ですが、全国の都道府県、市町村、多くの自治体の台所事情が、景気低迷に伴う地方税収の落ち込みで急速に悪化し、日常生活の負担増をもたらしているとのこと。静岡市、清水市だけがそうではなくて、結構余裕ですと考えるのですが、そうでもないと思います。このグランシップの立派な建物や、これから建設予定になっています静岡空港のことなどを、ちょっと思いをはせると、やはり不安になります。その記事の中にもありましたが、財源に余地の少ない自治体の場合、そのリストラの対象は、国の補助事業ではなくて、福祉などに向かいがちですとありました。ちょうどきょうお配りいただきましたグランドデザインの中にも、目指す都市像のトップに、住宅・福祉の向上とありましたが、やはり私は懸念されます。

地方財政の借入金、こういう数字をここで言うのは、果たしてどうかと思いますけれども、新聞に載ってましたので、1991年度比2.5倍の176兆円の借入金になっているということです。国内総生産の35%を超す数字だそうです。数字が大き過ぎて、ちょっと私もびんと来ませんけれども、その記事にも、ほとんど破産状態であるというふうな記事も書いてありました。このような要素を伺いますと、静岡市・清水市合併につきましても、ただ一般論を話している場合ではないと考えます。その財源確保の策を構じないと、我々市民の21世紀はあり得ないのです。そして、その策も、なりふり構わなくてははいけません。自然創造型社会の構築を目指しながら、まちの財源確保、新産業創出を図らなくてははいけないと思います。

静岡・清水が持つ魅力、資源を最大限活用して、自力でこの大競争時代を乗り切っていける新産業創出、そして財源確保が、新しい市、そして新しい市民に課せられた役割であると考えます。

目指すは、静岡・清水の自然と共生し、自己完結していける都市のシステムです。静岡の温暖な気候、そして決して広くない、手の届く範囲の風土、その93%が山、森林であることが、何にもかえがたい資源だと考えます。

そうして今、まさに静岡の資源である杉・桧は伐採期であり、宝は山に眠る状況にあります。昭和30年ごろに植林された木が、45年から50年たちまして、今ちょうど伐りごろ、使いごろになっています。その量は、静岡県で年間伐採量の4倍にもなっています。静岡の木で静岡の家を建てる。地元工務店と地元設計士がつくる環境負荷の少ない循環型社会を目指して、私自身、この3月から10人余りのメンバーで研究会を発足、参加して勉強会を重ねつつあります。メイドイン静岡、静岡ブランドの、人と自然にやさしい健康住宅をつくりたいと思います。そして、駅、市庁舎、学校、図書館など公共建築にも広げたいと思います。街のサイン計画やストリート・ファニチャーにも、静岡の木を利用したいと思います。市民の身の周りに、暮らしの中に、静岡の木を取り入れたいと思います。静岡の人の評価で静岡の山が育ちます。

また一方、マーケットである消費者は、環境健康問題に敏感になり、化学汚染物質への恐怖から、自然志向へとシフトしています。大企業でさえも、その流れに逆らえず、その苦手とする自然を志向せざるを得ない状況になってきています。先日も熱海で、大企業のハウジング・メーカーの数社が、木のことについて勉強しなくちゃということで、営業マンを、全員だと思いましたが集めて勉強会をしたわけですけれども、その勉強会、講習会に行きました講師が、実は静岡の木材メーカーのある社長です。ですから、静岡にはそういう人材がいます。自然をステージに、木を主役にするならば、静岡・清水には、そういう大企業との競争に打ち勝つ能力は十分にあると思います。そこは、大企業が主役のステージではなくて、静岡地場、地域産業のステージになります。

ただ個人戦では、規模、組織力で見劣りします。特に消費者の抱く環境や健康に関する不安、性能や機能に対する疑問にきちんとこたえて納得を得るには、地域の中小企業レベルでは、それは不可能です。地域企業同士でもグループ化を図り、その団体に対して、行政、そして地元大学、学術研究機関などがバックアップしていくような産・学・官がスクラムを組んだネットワークが必要になるでしょう。そしてそれは、中央のシンクタンクのように調査報告書だけで終わるのではなくて、より具体的、行動的で、物づくりまで見据えた産業化まで発展する場でなければいけません。

そして、静岡の持つもう1つの資源、それは江戸時代から育んできた物づくりの歴史です。漆器、雛具、鏡台、家具、塗下駄、そして木製やプラスチック製の模型など、まち全体が一つの工

場として機能してきたまちです。このさまざまな素材を適材適所に使いこなし、物をつくってきた技術で、これからの新しいマーケット、福祉の分野に挑戦することも不可能ではありません。

来年、介護保険法が施行されるのを機に、大企業がこぞって福祉分野に参入を図っています。ある情報では、三菱商事、ニチイ学館、そして松下電工、この3社が、いずれマーケットを席卷するのではとまで言われています。しかし、そこに先ほどの木と同じ大企業戦略がありそうです。福祉マーケットの最先端は、各地の介護福祉ショップですが、このままでは、このショップは大企業の用意した製品で埋まってしまいそうです。また商売としても、もうけが少なくてもおもしろくありませんし、利用者にとっても、最もわがままを言いたい分野の商品ですから、大企業側から一方的に供給されたもので、すべて満足できるとは考えられません。高齢者や障害のある方の、その不自由さは、人それぞれです。大量生産によってつくられた同一規格のものは、このマーケットには不似合いです。その人の生活に合った、体に合わせた物づくりが必要になります。そこに静岡のさまざまな素材を使いこなす物づくりのプロ職人集団たちの出番があります。

しかし、ここでも基本データ収集であったり、異業種間の協同であったり、企業間ネットワーク、あるいは学術研究機関との連携が不可欠です。ここでも産・学・官スクラムを組んだ、新しい物づくりネットワークの設置が必要になります。静岡・清水の豊かな自然と共生しつつ、自然の力のおかげで産業も成り立っていくシステムをつくりたいと思います。新しいまちならではのノウハウの蓄積を目指したいと思います。そして、その継続が新しいまちの文化をつくり上げていくと思います。新しいまちでは自然をつくりたい。そして、その自然がまちをつくり、その自然が人を育てます。自然の力のありがたさを、いつも身近に感じられるまちでありたいと願います。

終わります。ありがとうございました。(拍手)

< 4 > こんなまちになって欲しい 清水市・磯谷千代美さん

こんにちは。清水市の磯谷と申します。

私は清水で、「私も一言・合併通信」というミニコミ紙を、昨年1年間、5回にわたって発行し、市民の中で合併の議論を盛り上げていこう、賛成も疑問も含めて出し合っていこうじゃないかということで活動してまいりました。

さて先日、地方分権整備法が成立し、特例市制度の創設も決まりました。財政措置が不十分とはいえ、自分たちのまちをどうつくっていくのか。行政や議員だけではなくて、市民の側にも自覚と一層の努力が必要とされている時期になってきたと思います。そういう意味で、合併協議会

が、このような市民フォーラムの場を提供してくださったことに感謝いたします。

きょうは、合併してこんなまちをつくりたいということがテーマですが、私は、清水の市民として、そして女性として、2つの点で発言したいと思います。ランドデザインというよりは、むしろまちづくりのコンセプトのようなものかもしれませんが、2つ述べたいと思います。

まず1つは、情報公開と市民の参画、とりわけ女性の参画こそが、まちづくりのキーポイントであるということです。合併協議会は、これまでになく、公開と市民の参画を考慮に入れて運営されていると思います。もちろんそれだけ重大な課題だからだと思います。

私は、最近、清水市の女性行動計画についての市民の意見交換会に参加しました。清水は、新しい女性行動計画をつくらうとしておりますが、そこに、懇話会の委員さんたちが議論するだけでなく、公募の市民サポーターも一緒に、準備の段階から一緒に意見交換をする、そういうやり方に新しさを感じました。情報公開は、結論だけを示せばいいのではなく、その会議の議論の過程も市民に示し、議論の過程にも市民が参画していくことが必要だと思います。しかし、合併協議会以外の清水市の審議会の公開など、まだまだ不十分ではないかと感じるところもあります。

また、女性行政の分野で、参加から参画が言われて久しいと思います。これは政策決定の場への女性の登用こそが大切という、今では当たり前になった考え方ですが、果たして実際そのように進められているのでしょうか。きょう実は「あざれあ」で、国連女性2000年会議に向けての全国シンポジウムが開かれております。坂本副知事をお迎えして、全国から大ホールいっぱいの女性が集まって、新しい未来に向けての議論をしているところです。

国は今、男女共同参画ビジョンと、2000年プランに基づいて、男女共同参画社会を目指しておりますが、これは単に男女が平等でない、あるいは社会進出が不十分であるという女性のためのプランではありません。我が国が今直面している経済や政治、あるいは財政といった各分野での行き詰まり的な状況を、どうやって構造改革していくのかという、我が国が直面しているテーマの中で、実はこの共同参画社会を実現するというのがその大きな鍵の1つになっているわけです。ですから、国づくり、まちづくり、同じことだと思いますが、地方では、まだまだ女性の参画ということの理解自体が不十分ではないでしょうか。この合併協議会も、男女の比率を見ますと、どうも女性の方が少な過ぎるのではないのでしょうか。生活者としての暮らしを担い、子育てや介護を担い、そして仕事もし、社会活動もしている女性たちの声を、もっともっと言えることなしに、21世紀の静岡と清水の未来を議論する場としては、私としては少々物足りなく思うところです。

2番目の問題です。清水は今、非常に不況の中で、失業者も増え、元気がないというふうに言

われております。今後ますます雇用問題も重要な社会問題となってくると思います。あわせて、少子高齢社会も目前です。自分の家の近所を見ましても、あと10年後、20年後は一体どうなるんだろう、一人住まいが一体何人になるのかしらという不安を大変感じています。

こうした中で、近年、研究者の中で、大規模プロジェクトよりも福祉や介護型公共事業のほうが経済波及効果が高く、雇用創出効果も期待できるという考え方が出てきています。つい最近の新聞では、茨城県の福祉部の98年の調査研究で、ホームヘルパーの雇用や老人ホームの建設などの介護型の公共事業が、従来の建設型公共事業に比べても、経済波及効果がやや高く、雇用創出効果も1.5倍という、そういう調査結果が出ております。大きな箱物をつくることばかりではなく、その場合の投資効果ということも計算に入れる必要も出てきております。

ですから、合併する場合の財政特例措置に基づいて、この時期に社会資本整備、大きなものをつくることも必要かとは思いますが、その場合に、まちづくりのコンセプトとして、福祉のまちづくりに思い切って転換し、その必要性の中から考えていただきたい、そのほうが、むしろ地方都市が生き残れる道ではないだろうかということも、本当に15年、20年先の少子高齢社会の自分の身の周りを想像するだけでも、どんな暮らしになるだろうかと思うだけでも、今この時期から転換することの必要さを感じております。

以上2点述べましたけれども、私は、清水のまちがそんなまちになってほしいと思います。でも、なかなか大きな転換というのは一気にできるものではありませんので、合併ということで、静岡も清水も一緒になって、そのようなまちができれば、理想ではあると思います。

また、清水には、過去の合併の不満を口にする人や、あるいは吸収合併じゃないかと不満を口にする人もいます。そういう人たちが、ほんとに納得し得るようなグランドデザインを提案していただきたいと思います。生活者として、今、女性たちの中でも、旦那さんのお連れ合いのお仕事大丈夫かなんと不安を感じている人が、自分の身の回りにもたくさんいます。高齢者の親を抱えて、この先どうなっていくんだろうという不安を口にする人がたくさんいます。そういう人たちの一人一人の生活者、暮らしている一般の市民の生活に対して、このまちで安心して暮らして、このまちで安心して老いていくことができる、そういうまちづくりの未来のビジョンを示していただきたいと思います。

いろんな合併に伴って、大きな箱物をつくることの提案も1つの夢かと思いますが、日々暮らしている者の視点に立った、日々の暮らしを大切にるところからのビジョンというものも、また必要ではないかというふうに感じているところです。そういうグランドデザインが出される中で、私どももまた、合併について自分の意見をつくり、市民の中での議論を巻き起こしていく

ために、私も自分の場で、また合併通信などを通じて発言をしていきたいと思います。

以上です。どうもありがとうございました。(拍手)

< 5 > 新しいまちの理想を描く 静岡市・川村恭一氏

私は、ただいま御紹介をいただきました川村でございます。

私は、地元の静岡鉄道に 47 年間勤務をいたしまして、大変皆様に静岡鉄道を御利用賜りまして厚く御礼を申し上げます。主に経理の仕事を担当しまして、定年で退職し、現在 80 歳、静岡市民として年金生活を楽しんでいるところでございます。

それでは、私の意見を申し上げます。

緑の濃い山、気候温暖な住宅地、東京、名古屋の中間に位置し、清水港を持つ経済圏、三保に代表される海岸線、私はこんな面から、21 世紀に向けての理想なまちを心に描いている者であります。

私が現役時代、東京の大銀行でよく話を聞きまして、地方へ転勤するならばどこへ行こうかという、必ず静岡とか岡山とかいうような、静岡が出てまいりました。結局、気候温暖、産物豊富、人情細やか、これがやはり東京の大銀行に勤務しているサラリーマンの考えであったかと思っ、今そういうことを思い出しております。

それでは、第 1 番、安倍川の豊富な水資源。県特産のお茶とともに、我々の毎日の生活に潤いを与えてくれている。私は、安倍奥、庵原奥の山林を大切に保護育成することによって、今後とも市民のための水資源を大切にしなければと思います。乱開発は、この市民のための大切な資源の破壊であります。市中央部にない山林の良さにひかれて、退職後土を愛する余生を過ごす人も少なくはないであろうと思います。私の現役時代ですけれども、皆さんも御記憶があったと思いますけれども、東京の旅館等でお茶のまずさというものを、今もしみじみ思い出しております。

2 番目です。市中央部に近い住宅地では、生け垣の普及を私は提案したいと思います。東海地震の予知が叫ばれて 20 年近くになるが、他都市でのブロック塀の被害を思うとき、静岡、清水こそ、生け垣の普及を奨励し、緑あふれる住宅街をつくるのが、あわせて公害対策にもなると思うのであります。それには、生け垣のある宅地は、固定資産税の評価を一定割合減額する等の助成を要望いたします。皆様の御記憶にあると思いますが、昭和 53 年 6 月 12 日、宮城県沖地震マグニチュード 7.4 の地震がありました。全半壊家屋 650 戸、28 人死亡、1,000 人以上が負傷しました。そのときに、たしかテレビや新聞で、ブロック塀の被害というものが報道されたことがあります。

3 番目。静岡、東静岡、清水の経済圏の3つの核は、JR線と静岡鉄道線によって連結されておりまして、今後ともこの連結された形で発展するでありましようし、また発展させなければならぬと思うものであります。

4 番目、清水港。コンナテハブ母港としての条件を整えた日本有数の港湾に仕上げることによって、新産業を起こし、雇用の創出が図られ、若人のUターン、Iターンが起こって、経済効果は幾何級数的に増大するものと確信するものであります。そのためには、静岡・清水の合併によって、政令指定都市並みの力をつけ、その力によって、ぜひともハブ母港を実現せねばならぬと、声を大にして叫びたい気持ちであります。以上でございます。ありがとうございました。(拍手)

< 6 > 明日の清水市のために「こんな市をつくりたい」 清水市・百々勇司氏

百々勇司と申します。現在は清水港の港湾連絡協議会という、港湾団体の役員をやっております。既にお手元の意見集の6ページに、私が代表を務めております清水平成政経塾について記載されておりますので、これは省略させていただき、この5年間の締めくくりとして、推進あるいは検討してきた政策の中で、21世紀のまちづくりのため何をやるべきかを、私なりに具体的問題として発表させていただきたいと思っております。

まず第1に、これから本格的建設工事の始まる中部横断道路の海への延長による袖師・三保間にベイブリッジを建設する案であります。確かにこの横断道は、長野・山梨両県より輸出入の荷物を清水港に引き込む物流ネットワークづくりと、両県よりの観光客を迎え入れるための観光ネットワークづくりに大きく貢献することは間違いありませんが、ただ第一東名、第二東名につなげるだけでは意味がないと思っております。これらに連結して、ベイブリッジをつくることでもあります。すなわち、室蘭の白鳥大橋ができたように、建設省サイドの工事として位置づけさせ、産業、観光両面にて都市を再生させるのであります。そのためには、中電誘致のときのように、官民にて組織をつくり、強力な市民運動を展開しなければと考えております。

第2に、周辺環境が極端に悪化している東京品川駅に近い東京水産大学を、海のきれいな、富士山の美しい、日本の3大美港の1つに数えられる清水港周辺の企業未利用地に移転させることでもあります。この案件については、平成7年、清水市議会と清水商工会議所に対して、議員の定数削減、清水駅のターミナルビルの建設問題とともに陳情書を出したところでもあります。この件は、具体的な行動として、既に昨年10月、所管の文部省森田健作政務次官に文書をもって陳情しましたが、その結果として、衆議院決算行政監視委員会にて検討されたのであります。そして、原田昇左右委員長より、国政に反映させるという温かい返信をいただいております。

この大学は、開校 100 年を数年前に迎えておりますが、開設当初のすばらしい海、きれいな川の周辺がすっかり環境変化し、海の大学の立地には不適當と感じております。生徒数 1,200 名、敷地は 4 万 5,000 坪を持ち、バブル全盛期には坪 2,000 万円と言われておりました。しかも歩いて 10 分の品川駅は、平成 15 年に新幹線駅として再スタートすることになっており、この駅周辺は、大きく変わろうとしております。ただ、この決定については大学の理事者側が決めることではありますが、国の所管する大学の施設として、もっと活用できるのではないかと考えております。

清水市には、海洋バイオ研究所を初め、遠洋水産研究所、東海大学海洋学部、清水海員学校等、海の学校の施設が多くあり、これに水産大学が清水に移転されれば、最近マスコミをにぎわしている駿河湾深層水の研究と実用化展開にはうってつけの地域となり、清水市を含め、県内に新しいビジネスチャンスが訪れ、国際的企業が多く立地することになると思います。

第 3 に、清水駅前商店街の大改造を行う案であります。全体を更地とし、10 階建てぐらいの建物をつくり、1 階部分は既設の商店街の若手有志により店舗展開を行い、2 階以上は住居部分とし、主として独身者、若い夫婦のための安い賃貸住宅を、住宅都市整備公団、あるいは県の住宅供給公社等の力を借りて建設し、清水市の昼間人口を増やす案であります。さすれば、駅より 1 分のこの便利さは、県内はもちろん、全国の若者たちにセンセーションを巻き起こすと期待され、地元商店も活気を取り戻すのではないかと考えております。

第 4 に、気候温暖な三保折戸地区に、全国の私学の大学生、高校生のための合宿所、すなわち学生休暇村を建設する案であります。先般、この件にて東京市ケ谷にある私立大学連盟を訪問、現在の学生たちの課外活動について調べたところ、授業のないときは、全国各地の適当な場所に、運動部、文化部とも合宿して歩いており、余り決まった合宿所がなく、もし清水にできれば全面的に支援するとの言葉をいただきました。三保折戸地区の企業遊休地、未利用地、地域の遊休地、未利用アパート等に少し手を加え、また地元の東海大学海洋学部、翔洋高校、海員学校、中学、小学校の時期的に空いてるときを選び、野球、テニス、サッカー、演劇、茶道等の合宿に活用できれば、地元の学生との交流も増え、地域との連帯感が生まれ、加えて地元中心の事業として展開されると期待しております。

ただ、この計画には、何としても清水駅東口よりのモノレール計画の推進が重要であると思っております。もと国鉄貨物線跡地を活用していくことが最も最良の方法と思っております。ただ、このモノレール建設計画は、学生休暇村の大きな軸になることはもちろんですが、先ほど申し上げましたベイブリッジ計画、水産大学誘致にも重要な要素であり、これを本格的に検討するタイミングが来たのではないかと考えています。日ごろ感じていることとして、静清のランドデザインを

確立する上における基本は、モノレールを中心とした交通ネットワークの確立とっておりますので、東静岡駅周辺より、草薙、日本平、折戸、三保のモノレール路線は、必ず両市の発展の基礎づくりになると信じております。

第5として、今月オープンする日の出の清水マリナーミナルの1階部分2,000平米の物流スペースが、もしほかに荷物を移動できるならば、最近マスコミをにぎわし、繁栄を続けているアウトレットモール、すなわち外国製品の安売り中心の施設を誘致したらどうかということであります。まして、10月オープンするエスパルスドリームプラザの延長地域として、客船ターミナルの使命だけでなく、集客力のあるアウトレットモールをつくるべきであると思っております。エスパルスプラザとして、平日の客をいかに呼び込むかは大きな宿題となっており、アウトレットモールができれば、まさに客の流れは良くなると思っております。この日の出周辺の施設が集客を成功させるか否かは、清水市の経済振興に直接かわり合いがあると思っております。県当局、市当局も、企業だけの問題としてとらえるのではなく、この地区への集客問題について、ここ一番、真剣に考えなければいけないと思っております。

第6として、意見書にはありませんが、1つつけ加えさせていただきます。これは、静岡県、静岡市に提案したい政策であります。それは、東静岡駅前に、静岡市の地場産業の産業博物館をつくる案であります。これは石川県知事によく言われる、一種の企業観光であります。例えば、国際的に知名度のある、タミヤを中心のプラモデル業界を中軸に、雑具業界、サンダル業界、鏡台業界等の静岡市の地場産業を、一部製造工程を見せながら、常設展示場、即売場の建設を、官民合同にてやる案であります。またこれに加えて、県内の名産物産展もつくり、グランシップ周辺にさらに集客力を増すことでもあります。

以上6つの政策を提言しましたが、これは構想でなく、実現可能の政策と思っております。この政策推進には、70万都市の合併の先に、政令都市をはっきり位置づけることこそ重要と思えます。海、人、まち、港の清水市、県庁所在地としての人の集まる消費都市静岡市の合併により、新しいまちづくりが東静岡駅周辺より始まることを期待しております。それにより、現在の静岡駅を東静岡駅周辺に移転させ、名古屋駅並みに、のぞみ、ひかり、こだまを停車させ、370万の県民が住む県都の駅としたいものであります。

以上、いろいろ申し上げましたが、両市の合併の先に政令都市を見据えながら、中長期に事業を区分けし、官民にて、これら重点事業の早期実現を図らねばと思っております。これらの政策を推進させるためにも、一日も早く、景気上昇を肌を感じられるようになることを期待して、発表を終わります。ありがとうございました。(拍手)

< 7 > 新しいまちの理想を描く 静岡市・小澤絹子さん

小澤です。よろしく申し上げます。

私は、静岡市に住んでおりまして、母親の代、そのまた前の代から何代も静岡に住んでおります。そして私自身も、終戦直後の荒廃した静岡市から現在まで、ずっと関心を持って見ておりました。私自身、現在しずおか女性の会に所属しておりまして、やはり住みよい静岡市になるように活動を続けております。ぜひ、いい市になるようにということをいつも願っております。

それでは、幾つか言いたいこともあるんですけども、そのうち絞ってお話したいと思いません。

私は、まちの基本になるものとして、樹木のたくさんあるまちがよいと思っています。ヨーロッパは石の文化であり、日本は木の文化、そして水の文化とも言われます。確かにコンクリートだらけの都会より、樹木のたくさんあるまちのほうがほっとするとは、誰もが認めるところではないでしょうか。樹木がたくさんあるというのは、感覚的によいだけでなく、日本の地形、すなわち山があり、雨がたくさん降ることを考えると、土地の保全、環境上からも適しています。この日本の典型的なものが静岡県であり、そのまた真ん中にある静岡市及び清水市であると思いません。

そしてまた、これからのストレスが多いであろう人々の生活を考えるとき、ベースとして、日本古来の樹木のたくさんあるまちを目指すのがよいと思います。では、そのためにどうしたらいいのかということ、山のほうに樹木があるのはもちろんですが、街中の道路の両側には街路樹をしっかりと植えたいのです。今でも植えてあるではないかと言われるかもしれませんが、まだまだ足りないと思います。一般住宅の敷地は狭いですから、庭に樹木を増やすことのできる住宅は、そう多くありません。もう樹木を植えるところは街路樹ぐらいしかないと言ってもいいと思います。所によっては、道幅に余裕があり、そこに日本庭園のようなつくりにしてあるのを見かけますが、そういうものよりも、樹木をもっとたくさん植えてほしいと思います。何よりも空気がきれいになると思います。空気がきれいになるだけでなく、両側に街路樹がある道路が何本もあるまちには、それだけで品格があるような気がします。ぜひそのようなまちにしたいと思います。

先ほど、日本は水の国と申しましたが、ここで1つ、個人的なことですけどもつけ加えたいと思います。梅雨とか台風などで雨が降ると、すぐ水が出て被害が出ます。私は、庭の隅を掘って、そこに小石ばかり入れた一角をつくりました。そして、先日の大雨のときも見ていたんですが、そこにおもしろいように水が吸い込まれていきます。大した労力が要るわけでもありません

ので、こんな装置をどの家もつくっておいたら、水の災害も減るのではないかと思います。こんな簡単なことも、ぜひ大勢の人たちに勧めたいものだと思います。

そして、車の排ガスを減らすために、自転車の走りやすい道路にする。静岡市は、自転車の多さは日本有数であると聞いています。これからは、その上に高齢者が多いまちになります。そういうことを考えると、どうしても自転車や車いす、シルバーカーなどが通りやすい道が必要です。樹木の下のような道を、お年寄りや子どもが行き来している情景を思い浮かべてみてください。やさしい気持ちになるのではないのでしょうか。

その上で、清水から静岡、それから北部のほうを通過して清水に戻るような環状線のモノレールを設置し、その周囲に主な施設を配置すると、広がりのあるまちになると思いますけれども、いかがでしょうか。

樹木が多くて、空気がきれいで、自転車などが走りやすい暮らしやすいまちになったとしても、それだけではめりはりのないまちになってしまいます。もう1つ目玉になるものが必要だと思います。静岡市から清水市にかけて、海岸線が長く、山もあり、自然が豊かなはずですが、ありきたりのものばかりで、市民が誇れるようなものもありません。例えば山と海が接近しているところに、ディズニーランドに匹敵するようなものをつくってはどうでしょうか。また、現在ある神社仏閣、観光地などを、先ほどの自転車道などと関連づけて、京都市のように宣伝を多くして観光客を増やすなどの工夫があっても悪くないのではなどと思ったりするのですが、どうでしょうか。全国的に見れば、静岡は観光県になっていると思いますが、それは静岡県の東部と西部であって、中部は手薄になっていると思います。もう少しそちらのほうに力を入れてもいいように思います。

生活の面では、これからのまちは、市民がみんなで住みやすいまちにしなければならないと思います。今年から静岡市では、子育て支援のファミリーサポート事業が始まります。来年からは介護保険が始まります。介護に関する施設不足も指摘されているようですが、これについては、学校の空き教室や、リストラに努めている企業の使われていない施設などを利用することを考えれば、安くて整えられるのではないかと思います。企業には貸し賃が入るわけですし、いいのではないかと思います。また、市民も介護について、皆で協力することが大切だと思います。

ですので、現在会員の皆さんに、大勢でヘルパーの資格を取って協力しよう。いつか私たちがお世話になるときがあるかもしれないので、自分たちのためでもあるのだからと呼びかけているところです。自分はもちろん、お隣さんもお向かいさんもというように、大勢の人がその気にな

ったら、まちの雰囲気も変わってくるのではないかと思います。このように、子育てや高齢者援助に大勢の市民がかかわり、至るところで行われるようになると、老若男女、年齢層の違う人たちのつながりが強くなり、連帯感のある温かい感じのまちになるかと思います。このようなまちに育った子供たちからは、非行も減るのではないのでしょうか。

そして最後にもう1つ。常々大切であると思っていることは、今まで社会の第一線で活躍し、引退した高齢者たちが、それぞれの経験を次の世代につなげられるような、工夫のあるまちにすと思っています。ヨーロッパでは、このような第一線を引退した人が、自分の経験をいろいろなところで、子供たちに話して伝えていくのは義務であると聞きました。それは、私たちの社会でも必要なことであると思います。

以上で終わります。ありがとうございました。(拍手)

< 8 > 「静清合併後」の新市像(グランドデザイン) 清水市・伊藤秀雄氏

ただいま御紹介をいただきました伊藤と申します。簡単に自己紹介をさせていただきます。

私は、草薙で6代百姓をやっている次男として、昭和11年に生まれました。小糸製作所の初代の専従の書記長をやったあと、ここ25年以上、中小企業の経営コンサルタントとしてお世話になっております。60歳の還暦を記念して、静岡県立大学の東南アジアの留学生を対象とした、日本平留学生基金の世話人をやらせていただいております。

それでは私のほうの話をさせていただきます。私の現在の知識では、きょう来ていらっしゃる皆さんの期待に沿えるようなお話はなかなかできないと思いますが、一つ、ぜひよろしくお話をしたいと思います。

私の話は前半がソフト面の話をし、後半をハードの面についてお話をしたいと思います。しかし大事なことは、最後に申し上げますけれども、基本的には活力ある経済活動のできる都市、それから文化の振興をおられる都市、そして最後が市民の生き方を育成する人材育成型の都市を目指したいなあと考えております。

まず基本的な姿勢を申し上げますと、政令指定都市をまず目指すということが基本でございます。県都にふさわしい風格と、創造性のある豊かな機能を持つことが、まず非常に大事なポイントでございます。それには、文化と伝統を生かす都市と、港湾と自然を生かす都市の合体ということが必要ではないかなと思います。

2番目に、具体的なお話を申し上げますが、グランシップ周辺を中核とした、都市の再開発を

真剣に考えていきたいと思います。1番として、静岡・清水の交通アクセスの完成です。2番目は、県民のための高度情報化発信の基地としての機能でございます。3番目は、高齢者のための健康と教育、安心の一大シルバーゾーンをつくりたいなあと思います。ここに来ると、あるいはここにアクセスすると、県内の高齢者の方の欲しい情報とか欲しい資料が、いつでも簡単に自分の手元に届く。わからない人はここに来ていただいて、親切なガイドがいて、最後までわかるまで教えてあげるようなシルバーゾーンをぜひ進めたいなあと思います。

次に、行政と市民サービスのことについて触れてみたいと思います。市民サービスは、弱者優先の公平・平等・親切をモットーにしたいと思います。それから、小さな役所で効率優先、民間活力の有効利用が使命でございます。さらに、情報公開に徹した開かれた行政の確立が必要ではないかなと思います。優秀な市民に密着した議員の方がチェック・アンド・バランスを、そういう精神をもって物事に当たっていただける、そういう効用がぜひ必要ではないかなと思います。

以上は都市の機能と市民の行政についてのお話をさせていただきましたけど、先ほど北大路先生も全く同じようなことを言っておりましたけど、これからは市民が都市を選ぶ時代ですから、静岡・清水によその都市から大勢の方が来てくれるような都市をつくって、税収を上げてもらえるような都市をつくるのが絶対条件です。これが非常に大事なポイントではないかなと思います。

次は、少しハードの面についてお話をさせていただきます。まず地域的な機能ゾーンとしては、清水市の駅の周辺は、私も若者が集まる大型住宅地域を目指したいと思います。その根拠は、きれいな空気、美しい海、富士山の眺望、交通の利便性であります。つまり、これからの都市は、若者が一つの財産というイメージづくりをしないと、衰退をする可能性は非常に高いというふうに考えます。

それから、少し宣伝になりますけど、私の住んでる草薙地域は、文化と教育と情報と伝統の地域ゾーンとして指定してみたいなあと思います。ここには、県立大学とか図書館だとか、民間の研究所だとか、草薙神社、古墳、緑地帯、旧東海道、緑地の健康広場などのたくさんありまして、非常に活用されてますけど、さらに追加したいことは、博物館とお茶の文化館。もう1つ大事なことは、森林浴リゾートゾーンをつくってみたいなあというふうに考えます。さらに、静岡の駅南から有名観光地について、交通アクセスのためのモノレールを1つつくり、一大バスセンターをつくりまして、あわせて都市の整備と静岡空港へのシャトルバスの発着をさせたいと思います。さらに、南北交通と静岡市と清水市の間をトラック専用道路をつくって、経済の効率化を図りたいというふうに考えます。

それから、従来産業とあわせて、経済産業の安定育成が挙げられます。1番として、静岡市駅南を、メディアの中心地帯にしたいと思います。ハイテク高度技術産業をここに持ってきて、メディアを中心にした静岡駅南の開発。それから、海洋開発と資源の活用で、清水港、久能海岸、用宗海岸の150号線のベルト地帯を海洋資源の開発と再利用のために使うということです。それからシルバーの人たちのために、ぜひ一つグリーン産業を展開したいと思います。小嶋市長も前に、どっかでお話をされてましたけど、安倍川の流域の緑を守るための樹木の産業と治水の産業を、中高年齢の人のために企業化して、ぜひこれを守っていくことが、将来非常に大事なことでないかなと思います。あと県都にふさわしい金融機関の中核化と、国際企業のビジネスアクセスとしての人材があると思います。

最後に最も重要なことを申し上げます。1番は、南アルプスの大自然を守って、健康につながる三保海岸の砂浜の大自然を守ることです。富士山の眺望を観光に生かすということです。緑ときれいな空気、防災安心のある都市づくりですが、さらに優秀な人材と、自分のまちを愛する市民の気配りと目配りと思いやりの精神の高揚が、静清合併問題についての絶対条件であって、それが国際化のための、国際都市へのステップの足がかりでございます。

限られた時間でございますので、私の話が十分皆さんに伝わらなかったと思いますが、何か1つヒントがあれば、この上ないありがたいことだと思います。御清聴ありがとうございました。
(拍手)

< 9 > 静岡市立梅ヶ島中学校3年 志村有梨さん

同 岩崎万祐子さん

志村有梨さん 私は、静岡市立梅ヶ島中学校3年の志村有梨です。よろしく申し上げます。

岩崎万祐子さん 私も同じく、3年、岩崎万祐子です。よろしく申し上げます。

今から私たちが考えた、静岡と清水が合併して新しいまちになったらどんなまちにしたいのか、新しいまちに望むことについて発表したいと思います。聞いてください。

初めに、志村有梨さんから発表してもらいます。

志村有梨さん 私は、両市が合併したら、やってほしいことがたくさんあります。その1つ目は、地球に一番優しい市になってほしいということです。その理由は、今、静岡市の川や海や山などが汚れてきているので、みんなでごみ拾いなどをして、きれいにすることができたらいい

と思うからです。クリーン作戦のようなイベントを盛んに行うまちになってほしいと思っています。そのほかにも、今年度からペットボトルや新聞紙などの分別収集が静岡市でも始まりましたが、もっと盛んにし、資源を大切に、地球規模での環境を考えて、緑がたくさんある、排気ガスの少ないまちになってほしいと思ったからです。

そして2つ目は、賑やかで楽しく、外から人が集まる市になってほしいということです。例えば、両市に今ある大道芸や七夕まつりや静岡まつりなどを合同でやったり、合併記念まつりという、静岡から清水までちょうちんや出店でつなげるようなイベントをやったら、賑やかで楽しいと思います。そのほかにも、遊園地、コンサート会場、デパートを増やして、明るく人が集まる市にしていきたいです。遊園地は子どもからお年寄りまでみんなで遊べるようにして、アトラクションはジェットコースターやプール、温泉やサイクリングコースなど、いろんなアトラクションを取り入れ、一日いても飽きない遊園地をつくってほしいと思います。コンサート会場は、芸能人やミュージカル、いろんな発表会に使えたらいいと思います。そうすれば、子どもからお年寄りまで、みんなに魅力のあるまちになるので、人がたくさん集まり、市がとても賑やかになると同時に、働く場所が生まれ、両市に住みたい人が増えると思います。

3つ目は、私も受験生の一人として、市立の高校を増やしてほしいと思います。それは、今より高校の学科をもっと増やして、みんなが自分の夢に合った高校を選択できるようになったらいいなあと思うからです。例えば英語科や音楽科、美術デザイン科などの学科があったらいいと思います。そうすれば、中学生が今以上に目的意識を持って学べると思います。

4つ目は、ほかの国との交流が盛んなまちになってほしいということです。静岡市は姉妹都市のアメリカ合衆国のオマハ市と交流していますが、もっと多くの国々と交流する機会が増えたらいいと思います。多くの国々と仲良くなって、両市が合併したら、京都のように外国人がたくさん訪れる国際都市的な都市になったらいいと思います。まずは小学校、中学校、高等学校などでは、交換留学や交流会、体験授業などを盛んにやって、子どものときから外国の人々と接することのできる機会を増やしてほしいと思います。

そして5つ目は、両市が合併したら、私の住んでいる梅ヶ島のような山間地の人たちが、より便利に生活できるようにしてほしいと思います。私の近所に、市街地までお年寄りが、2時間に1本しかないバスに、2時間乗って買い物に行きます。それを見て、お年寄りがもっと楽に買い物ができたらいいなあ、この不便さが何とかならないかと思っています。そこで、コンビニやスーパーが山間地にできるようにしてほしいと思います。それには、山間地にも人が集まるように、交通機関や医療福祉の面で住みやすい環境を整えることが必要だと思います。個人的には電車を

梅ヶ島まで通して、もっと早く街まで行けるようにしてくれたらいいなと思います。

最後になりますが、地球に優しいまち、賑やかで楽しい魅力的で人が集まるまち、夢をもって子どもが学校で学べるまち、多くの国と交流する国際的なまち、山間地とも一体化して発展していけるまちを目指して、両市でしかできないこと、ほかの自治体ではやっていないことをやって、ほかとは一味違う市になってほしいと願っています。

これで私の発表を終わります。

続いて、岩崎万祐子さんに発表してもらいます。

岩崎万祐子さん 私のイメージする新しいまちは、お年寄りやハンディを持った方、小さな子どもに優しいまちです。私は、日頃静岡で生活していて不便だなあとすることがあります。でも、それは私に不便ではなくて、お年寄りやハンディを持った方にとって不便なんじゃないかなと思うことです。1つは階段です。静岡のあちらこちらにエスカレーターがあります。そのエスカレーターは、階段の昇り降りが大変な人のためについていると思います。だけど、まだ若く、階段の昇り降りが楽な人も使っています。お年寄りが来ても譲ろうとはしません。体の不自由な方に譲ろうという標識があるのに譲ろうとはしません。まだ福祉に対しての関心が浅いのではないのでしょうか。そして、呼びかけが大切だと思います。市民みんなが関心を高めていけたら、お年寄りやハンディを持った方々に安心して生活してもらえないのでしょうか。両市が合併し、新しいまちは、福祉を積極的に進める優しいまちになってほしいと願っています。

終わりに、梅ヶ島中学校3年生の意見を簡単に紹介したいと思います。6つの意見が出てきました。1つは梅ヶ島のような山間地での生活を便利にしてほしいという意見です。私が住んでいる梅ヶ島は、道が狭く、店も少ない山の中にあります。店が少ないので、買い物をするときには街まで出かけていかなければなりません。その間に通る道はとても狭く、危ないとこばかりです。自然はたくさんあり、とてもいいところですが、生活していくにはとても不便です。なので、道路の整備をしてほしいと思います。

2つ目は、犯罪や交通事故のない、安全なまちにしてほしいという意見です。今、交通事故が増えてきています。交通事故だけではありません。犯罪も毎日のように起きています。私は、犯罪や交通事故の多いまちには住みたくありません。市民みんなが事故に遭わないように、安全なまちにしてほしいと思います。

3つ目は、東京のような大都会になってほしいという意見です。東京は文化や流行の中心地であり、たくさんの情報が入ってくる日本の中心都市です。東京みたいな大都市になれば、人はた

くさん集まり、街も賑やかになるのではないのでしょうか。

4つ目は財政についてです。静岡と清水が合併したら、財政規模が拡大するので、市民が楽しめる施設をつくってほしいと思います。市民が楽しめる施設、それは観光地やリゾート施設、娯楽施設などです。これらの施設ができれば観光地として有名になり、人がたくさん集まり、明るいまちになるのではないのでしょうか。観光地としてだけではなく市民も楽しめて、みんなの大好きなまちになっていくと思います。

5つ目は、静岡と清水の良いところを、そのまま合併後も尊重してほしいという意見です。静岡と清水にはたくさんのイベントや、今まで各市で行ってきた行事があると思います。静岡で言うなら静岡まつり、清水なら七夕まつり、私は毎年とても楽しみにしています。きっと私のほかにもたくさんの方が楽しみにしてると思います。このような祭りは合併後も続けてほしいと思います。このように、私たちの考えたようなまちになってくれれば、市民は安心して生活でき、明るく優しいまちになっていくのではないのでしょうか。

以上で、私たちの発表を終わらせていただきます。ありがとうございました。(拍手)

事務局 それでは貴重な御意見をいただいた意見発表者の皆さんと、それから北大路先生に、もう一度盛大な拍手をお願いをいたします。(拍手)

以上をもちまして、市民フォーラムを終了をさせていただきます。北大路先生、どうもいろいろありがとうございました。

それでは、ここで10分間の休憩を挟んでまいります。再開は3時35分といたします。よろしくお願ひいたします。

<開会・新委員紹介>

事務局 引き続きまして、第2部の協議会に入らせていただきます。

それでは、ここで今回から協議に加わることになりました新委員の皆様を御紹介をさせていただきます。お手元には配付をしてございます資料1の合併協議会委員名簿と、そして座席表を御覧をいただきたいと思います。

まず、静岡市農業協同組合代表理事組合長の鈴木脩造委員でございます。(拍手)もう一方、清水市農業協同組合代表理事組合長の杉山楨一委員でございます。(拍手)以上、お2人の委員が就任をされました。今後ともよろしくお願ひをいたします。

それでは議事に入らせていただきます。それでは、議事進行は規約第 10 条第 2 項の規定に基づきまして、会長が議長となつて行うこととなっております。どうぞ、よろしくお願ひいたします。

<開会・新委員紹介>

事務局 引き続きまして、第 2 部の協議会に入らせていただきます。

それでは、ここで今回から協議に加わることになりました新委員の皆様を御紹介をさせていただきます。お手元には配付をしてございます資料 1 の合併協議会委員名簿と、そして座席表を御覧をいただきたいと思ひます。

まず、静岡市農業協同組合代表理事組合長の鈴木脩造委員でございます。(拍手)もう一方、清水市農業協同組合代表理事組合長の杉山 檜一委員でございます。(拍手)以上、お 2 人の委員が就任をされました。今後ともよろしくお願ひをいたします。

それでは議事に入らせていただきます。それでは、議事進行は規約第 10 条第 2 項の規定に基づきまして、会長が議長となつて行うこととなっております。どうぞ、よろしくお願ひいたします。

<議事～フリーディスカッション(前回)のまとめ>

事務局 それでは議事に入らせていただきます。それでは、議事進行は規約第 10 条第 2 項の規定に基づきまして、会長が議長となつて行うこととなっております。どうぞ、よろしくお願ひいたします。

議長(小嶋善吉静岡市長) それでは早速議事に入ります。

まず本日の会議は、委員 39 名中 36 名の御出席をいただいておりますので、定足数につきましては規約第 10 条第 1 項の規定による委員の 2 分の 1 以上の出席をいただいておりますので、本日の会議は成立をいたしております。

それでは会議次第に従つて議事を進めてまいります。

まず第 6 回協議会で行いましたフリーディスカッションのまとめについて、事務局から報告をいたします。

事務局 それでは事務局のほうから、第6回の合併協議会で御議論いただきましたフリーディスカッションの概要につきまして御報告を申し上げます。お手元の資料2の第6回合併協議会、6月2日開催フリーディスカッションの概要、こちらを御覧をいただきたいというふうに思います。

第6回の合併協議会では、新市の都市ビジョン構築のために、委員の皆様方にフリーディスカッションということで、率直な意見交換をお願いをいたしました。協議の内容につきましては、お手元にお配りをしております会議録のとおりでございますが、その概要を整理をいたしましたのが、この第6回合併協議会フリーディスカッションの概要でございます。

まず、前回の皆様方の御議論を大きく3つの論点に分類をさせていただきました。その第1点目は、都市グランドデザイン策定に向けた考え方ということでございまして、両市が仮に合併をしたら、どんな都市が実現できるかというグランドデザインの目的から、合併によります相乗効果を明確にしていこうという考え方が示されております。

2点目といたしましては、目指す都市像に関する議論として整理をさせていただいておりますが、地域内全体の均衡ある発展や、都市の多様性を求めていこうという御意見、さらに自主、自立、自己完結、自治の確立等、都市間競争が激化する時代の中での70万都市としての自立性の確立の議論ですとか、それぞれのお立場からの配慮すべき事項につきまして御指摘がございました。

3点目といたしましては、より具体的な新市の都市構造の議論といたしまして、交通ネットワークの確立の議論ですとか、東西軸上の3極構造から、さらに南北軸も加味いたしました多極型の都市構造を確立していくべきではないかという御議論もございました。議論の内容を整理させていただきますと、このような概要になったわけでございます。報告のほうは以上でございます。

< 議事 ~ 市民意見を踏まえた都市ビジョン協議 >

議長 それでは引き続き、都市ビジョンの協議を行いたいと思います。

本日の協議は御了承をいただいた年間スケジュールにしたがいまして、第6回協議会に引き続きましてフリーディスカッションを行いたいと思います。そして委員各位の新市都市ビジョンにかかわる御意見を伺いながら、明日から始まる9回のタウンミーティングにより、市民の皆さんから出される都市ビジョンへの広範で多彩な御意見等をも総合的に整理をして、次回の第8回協

議会では、都市ビジョンにかかわる意見集約と、それが示している方向の幾つかをまとめていきたいと考えます。

それでは、資料2に基づいた御意見でも、また本日のフォーラムで発表された御意見に対する感想、あるいはさきに実施をいたしました両市の施設見学を通じた御意見、何でも結構でありますので、御発言をお願いしたいというふうに思います。

金子昌義委員(清水市議会議員) 清水市の金子でございます。

きょう、フォーラムを聞かせていただきまして、本当にそれぞれに特徴のある発言をされまして、大変参考になりました。その中で、1つ2つ感じましたことを申し上げておきたいと思いますが、実は、ここにフォーラムの意見が集約された発言要旨が出ておりましたけど、発言される方の中に、もう原稿と全然変わったような発言をされておまして、むしろきょう発言されたことのほうが中身としてはいいんじゃないかというふうなところを感じた面がございます。そういう点で、私はこの発言要旨に忠実に発表をされるのかなと思っていったんですが、その点でちょっとこういう形、やっぱりあるのかなと思って聞いておりました。

それからもう1つ、静清合併のことについて発言をされておるわけですから、合併してこういうふうになってほしいとか、こうありたいとかという発言がもっとあるべきだと思いましたが、合併をしなくてもやれるようなことがかなり多く出ておったと、こんなふうに感じます。と申しますのは、清水・静岡のようなこの大都市の合併というのは余り例を見てないもんですから、過去の経験で、どこどこの市にこういうふうに合併してこうなると、こういう発言がですね、なかなかこれ出にくいということもあるだろうと思いますが、そういう意味で、合併してこうあってほしいとか、こうなるべきだとかっていう具体的な発言がもうちょっと欲しかったなあと、こんな感じがいたしたわけでございます。

いずれにしても、こうしたことは初めての試みのようですから、これからまたいろいろ検討をされることがあるかもしれませんが、大変参考になりました。意見を申し上げます。

議長 いろんな感想を皆さんもお持ちになったと思いますが、できるだけ市民の皆さんから、合併したらどういうまちにしたいんだという意見をやっぱり聞くということが大事ですから、あしたからタウンミーティングを9回ありますので、そのときにまたたくさんの市民の皆さんから意見が出ればいいなあと、今から楽しみにしておりますので、また協議会の皆さんもお誘い合わせのうえ、御参加をいただければというふうに思いますので、よろしく願いいたします。

それではほかに、何か御発言ございますか。

井上恒弥委員(静岡市議会議員) 大変、いろいろ立派な意見をいただきました。本当に応募していただきました皆さん、本当にありがとうございました。また発表した皆さん御苦労さまでございました。市会議員の井上です。すみません、後になりまして。

前回はグランドデザイン策定に向けて、考え方というところでいろいろ話をさせていただきました。もっと目指す都市像の基本理念を、大いにこの場面で議論したほうがいいんじゃないかということを申し上げました。そんなことを言った矢先に、この応募意見集をいただきまして、たまたま本日の発表ではないんですけど、まあ、皆さんのお手元に行っているかと思いますが、24番の千賀さんですか。ここにすごく自分の考えと似ている部分、あるいは皆さんこういうような考えでスタートしないと、この協議会がうまくまわらないんじゃないかなって思うような文章がありますので、ちょっと披露したいと思っております。

待ち望んでいたその成り行きに、協議会の成り行に注目しておりますと。しかしその根底を見ると、合併という事柄のためか、両市の間に微妙な食い違いを感じる。つまり合併する側、合併される側という心理である。それは必ず出てくるメリット・デメリット議論に表れていると。今一番必要な認識は、袋小路にある県中央部の両市が、今のままでは東部、西部に対して相対して没落するということである。

この辺がすごく感じるものがありましてね、その後に、新市を創造する協議会にしてもらいたい。静岡市民だ、清水市民だという対立した議論はやめてもらいたい、こういう格好でまとめてありまして、まちのあり方を3点ほど載せておるんですけど。ここの部分をやっぱりちゃんと協議会の委員が持っていないと、グランドデザイン策定に向けた考え方あるいは目指す都市像、新市の都市構造、この辺のところ収まらないんじゃないかなと、まず基本的に、これを持っていないと収まらないんじゃないかなっていう気がいたします。まあ皆さんどんなふうにお考えになるのかはまた聞きたいと思っております。以上です。

議長 貴重な御意見ありがとうございました。まあそういうことだというふうに思います。

誰かほかに、御発言ございますか。もうフリートキングですから、自分で考えてらっしゃること、また自分の意見を、こういう機会で言いたい方はいろいろあると思いますので、一つ言っていただきたいと思います。それがこれからのグランドデザインつくるときの、早速皆さんの発言がいろいろ参考になっていくと思いますので、よろしく願いいたします。

前田欽吾委員（静岡市連合町内会会長） 前田です。

タウンミーティングがすぐ始まるんですが、これの周知方法について、どのような方法をとられたか、事務局のほうへお伺いしたいと思います。

事務局 事務局からお答え申し上げます。

タウンミーティングにつきましては、いろいろ広報紙等を通じましているんなPRは基本的に行っておりますし、連合町内会を通じまして各地域の町内会の皆さん方にも周知徹底をしております。そのほか、各種団体等の皆さん方にも御案内を差し上げまして、なるべく大勢の皆さん方に御参加をいただけますよう、現在努力をしておりますところでございます。以上でございます。

前田(欽吾)委員 それからもう1つ、この間送ってもらった中に、タウンミーティングについて開催地を、中心部を外せというような御意見があったように資料をいただきましたが、その件について、実行するタウンミーティングの場所を変更する意向はあるかないかのことをお伺いします。

事務局 お答えを申し上げます。

ただいまの御質問はですね、市民の皆さん方からの意見票の中に、今回の9回にわたりますタウンミーティングの開催場所を、例えば山間地のほうで2カ所ですとか、それから中山間地のほうで2カ所、そして中心部では1カ所とか、地域別に配置を考えたらどうかという御意見をいただいております。しかし今回、静岡市内、清水市内、それぞれで9カ所でございますけども、集まりやすい各公民館を中心に場所を決めさせていただいておりますので、既にPR等も行ってまいりますので、今回はこの9カ所を実施をさせていただきたいと、そんなふうに考えております。以上でございます。

前田(欽吾)委員 はい、了解しました。

織田高行委員（元静岡青年会議所理事長） 元青年会議所の織田と申します。

このグランドデザインの策定の考え方という部分で、ちょっと意見を述べさせていたきたいと思います。

まず、ランドデザイン策定についてのこれ基本的な目標、コンセプトを今議論をしているわけですが、先般のお話の中で、都市像ですとか基本理念というのを重視するべきだというようなお考えは、多分皆さんも同じだと思いますけども、要するに合併論、先ほどのお話もありましたけども、井上さんのお話もありましたけども、合併ということで、どうしてもやっぱり両市の立場という微妙な差が出てくるという部分があるかと思います。確かにそうは言っても、2つの自治体と一緒にいるかならないかという議論をしてるわけですから、最終的には合併しなかったときとしたときと、どういうふうに違うんだという部分が、市民としては非常に興味深いところだと思います。その辺の部分をランドデザイン策定の段階で、合併後のイメージがつかめるというようなことが必要になってくるかと思いますが、合併後のイメージといいますか、違いがわかるような形の、理念というか、コンセプトというか、そういうものを一つ、まあカレーの味の違いみたいなもので味つけみたいなものができるような言葉が欲しいなというふうに思います。

それから、これはゆくゆくは行政サービスの変化というようなことにもかかわってくると思いますので、行政サービスの変化みたいなものがその段階でわかるような形のものにつながっていかなければならないというふうに思いますが、それをコンセプトで表すというのは非常に難しいことだと思います。そこで我々、私は青年会議所の今OBですけども、青年会議所の中でも非常にいろいろな議論をして、勉強会を開催をさせていただいておるわけですけども、我々の今の若手の議論の中で、行政がいろいろな部分で、この産業構造が行き詰まっているという、この今の中で、まあPFIですとかいろんな手法があるようですけども。いわゆる行政と市民の役割分担というようなものが、今いろんなところで叫ばれているというようなことも出てきていると思います。

そんな部分を、じゃ、両市が合併したか、しないかということよりも、新しいまちはこの部分を、いわゆるその市民の側の責任としてやっていくんだと。新市は、いわゆるほかの自治体ではやっていないような、こういう部分を、いわゆる住民自治として、市民が役割分担をしていくんだというような部分が入ってくると非常にわかりやすいかな。それを、確かに市民のニーズというものを受け入れなければなりませんから、市民が受け入れられないかという部分も非常にあるかと思いますが、そんな部分を1つの特色として我々は考えていきたいななんていうことを、1つの例として挙げさせていただきたいと思います。

そこで、我々の議論の中で、その地域の、地域が主導権を握っていくんだ、地域コミュニティっていうものを、これからやっぱりもっとももっとつくっていかなければならないんだ。地域コミ

ユニティの連続したものが、いわゆる1つの枠組として自治体になるべきだと。だから静岡・清水のその今の自治体の区割りというものが、そこでいいのか悪いのかという議論をしていこうかということで、合併協議会という場を盛り上げていったという経緯がございますので、いわゆるそのコミュニティの連続性というものを考えたときに、じゃ、そのコミュニティ、地域でどういう地方自治、住民がどういう役割を担っていくのか、どういう地域をつくっていくのかということによっても、例えば清水の港周辺の地域と静岡の我々のような、いわゆる住宅地域での地域と、その地域差というか、地域の特色というものが出てくるだろうと思いますし、そんな部分をもっともっと具体的にというか、これは目指す都市像というよりも、市建設計画の中の部分で具体的に出てくることだと思いますけども、そんな部分をランドデザインの中で表現できないかなんていうことを考えた次第でございます。

要するに、一番最初に言いましたランドデザイン策定の中で考える考え方としては、合併後の違いがわかるような表現をしていただきたい。それから、最終的には行政サービスと地方自治、要するに住民の側の役割分担みたいなものが描けるような、行政サービスの変化がわかるようなものにしていきたいなというふうに考えた次第でございます。

以上、考え方について、ちょっと意見を述べさせていただきました。

西ヶ谷忠夫委員（清水市議会議員） 清水の西ヶ谷です。

私ちょっと気になる点がありましたので、発言をさせていただきたいというふうに思っております。

それは先ほど静岡の井上委員のほうから、この24ページの静岡の方の発言ですか、の内容をとらえまして、静岡・清水両市民が、対立した議論というようなことで、まあそういうことはないようにやろうじゃないかと、こういうお話があったわけではありますが、私は井上委員がそのように考えていらっしゃるのかなあと、こういうような点でちょっと気になるものですから、一言言わせていただきたいというふうに思います。

両市の今回の協議会の問題は、既にランドデザインの冒頭2つの点で触れられているわけですね。それは1つは、両市の都市発展の可能性を最優先に、合併の是非を含んだ、合併にかかわるいろいろな項目を総合的に協議しようというのが1つでありますし、いま1つは、両市民が望む、より良いまちづくりに向けての選択肢の1つに、両市の合併が必要か否かを検討とあり、合併に関して言えば当然否もあるというようなことが触れられておりまして、その中心は、両市の市民が今21世紀をにらんで、両市の合併によってより良いまちづくりができるのかどうかとい

う判断が今求められているわけでありまして、そういう点では私たち、私は清水の委員であります。当然 24 万市民の皆さんの負託に応えられるようにやっぱりしていかななくてはならないと、そういうような姿勢でこの間の協議会に臨んでいるわけでありまして、もし井上さんがそのように考えていらっしゃるなら、ぜひ改めていただきたいなというように思っております。

で、先ほど応募された、まあ選定された皆さん方からいろいろお話あったわけですが、私もそれらの話の中に相当の面で、これからの都市づくりにおいて本当に生かしていかななくてはならないなというようなことは多く感じたわけですが、私は何よりもその中で、今の将来へのデザインをつくるということも非常に大切でありますけれども、今自治体が抱えている現実の問題から出発をするという角度も、もう 1 つ大切なことではないかなというふうに思うんですけれども。

そのような中からいきますと、例えば高齢者が本当に安心して住めるまちと、このことが今非常に大切でありますし、あわせて少子化問題が 1 つの大きな、21 世紀をにらんで都市が抱える問題でありますので、本当に若い世代が安心してこの子どもたちを育てられることができるまち及び教育環境、このようなことも考えてみる必要があるのではないかなというふうに思っております。

同時に、先ほどお話ありましたように、今いろんなプロジェクトが集中しております、その見直し問題も鋭く問われているわけですが、21 世紀を考えてみますと、非常にこの地球規模での環境保全、このことが、都市にも本当に投げかけられているというふうに思っているわけですが、そのためには土地利用という問題でも大胆なやっぱり見直しをかけまして、自然環境を守って緑化に努めることによって、地震や災害に強いまちをどうつくっていくのかという問題も、現実の問題としては、非常に東海沖地震とのかかわりもありまして問われているのではないかなというようなことを考えるわけがあります。

そういうような点では、本当に将来どういうまちをつくるかというデザインと同時に、それを考える上でも、やっぱり現実の、今直面している地方自治体の問題をしっかりやっぱり議論していかななくてはならないと、私は考えておりますので、もうそういう姿勢で協議会に臨んでいるものですから、ぜひ井上さんの言葉を、もしそういうことであれば改めておいていただきたいなというようにお願いをしておきたいというふうに思います。

議長 どうぞ、井上さん。

井上委員 投稿者本人の言葉ですから、ここの文章、対立の議論はやめにしてって。したがって、前向きにこうしてこうという議論は大いにやっていただきたいと思っております。

今、委員のお話の中で、ちょっと気になるところは、ここは合併協議会であって、是非を含めて、是非を決める協議会ではないということがまず1つあります。それから、災害の問題、環境の問題、意見書、いろいろなお話いただきました。すべて一緒になったらこういうようにできるじゃないかという、そういう意見のお話が、福祉についてもしかり、そのように私は、壇上で今意見発表していただいた皆さんの多くは、一緒にそういうまちづくりをしようじゃないか、それができるんじゃないかという意見のように取りましたので、そこだけ申し上げておきます。

西ヶ谷委員 私、もう反論するつもりはありませんけど、グランドデザインの冒頭、あれ基礎調査の冒頭にはそういう触れ方をされてるという、それが前提になっているということを書いてありますので、私はそれ言っただけですから。

鈴木和彦委員（静岡市議会議員） 前回も、いろんな皆さんから御意見が出て、自然環境の調和のとれたまちにしてほしいとか、あるいは交通ネットワークの問題も出てきたり、あるいは第二東名、それから中部横断道を基軸とした物の考え方をしっかりつくってほしい、あるいは港を生かしてほしい、いろんな議論が出てきました。で、今回はさらにその方向性っていいですか、都市像をどうするかという、多分ディスカッションをしてほしいということだと思いますけれども、私はその物の考え方の裏にといいますかね、市民の税金のコスト意識というものもどこかに明記をしてもらうと言うとおかしいですが、2つのまちが一緒になったときに、市民の皆さんの税金がこれだけ効率よく使える場面があるということもぜひ載っていただくと、私も今いろんな会合に行って、静岡の合併の話が随分議題になるわけですけども、どういうまちにするかっていうのは今一生懸命協議してますよという話の中で、静岡と清水が一緒になって本当にメリット、デメリットという議論が出てくるんですけど、ぜひそのメリットを伸ばすようなですね、グランドデザインを当然書いていただかなきゃならないわけですけども、その税負担もね、今100円のコストでやっているものが、一緒になったら95円にできる、あるいは90円にできるものをどこかに出てきていただけるとね、ありがたいなと思っているんですけど。

議長 はい。それも貴重な御意見だと思います。

望月厚司委員（清水市議会議員） 清水の望月ですけど。井上委員さんとか清水の西ヶ谷委員から、まあいろいろありましたけど、その中では、いい意味で議論をしようかということが背景にあると思います。ただ、少し気になりましたのは、この合併協議会そのものは是非を決める事実があります。最終的には合併協議会としての是非の延長線で当然ありますから、これは忘れてはいけないということは、ぜひ確認はしとかなきゃいけない。もちろん、当然両市民の意向把握をしたり、方向性をしたり、最終的には合併協議会で是非を決めるということの事実がありますので、それはぜひ確認をしておかなきゃいけないというように。

遠藤貴久委員（清水青年会議所事務局長） 清水の遠藤です。

先ほど北大路先生のお話の中で、首都圏の移転のメリット・デメリット、首都圏の移転でいわゆるメリット・デメリット論よりも、これを機会に何ができるかということが重要ですよということ、お話がありました。いわゆる引越しのときであればライフスタイルとか価値観まで求めていくということですけども。先ほど静岡の織田委員が、行政システムのところまでというお話が出ましたが、ランドデザインで言えば、一番最後のほうの新市の行政システムというものがランドデザインに入っておりますけれども、この部分、先ほどの市民フォーラムの、清水の渡辺さんの中に、9区に分けて区長さんなり自治会長さんを置いてというお話がありましたけども、その部分に至るまで、その行政、新市の行政システムの中に組み込んでいただきたいなと思います。その部分は、最終的には、いわゆる市民の自治意識の向上という部分につながってくると思っております。内容的には、非常に私自身は重要な部分だと思っておりますので、これからも意見を言っていきたいと思いますが、きょうはぜひとりあえずその新市の行政システムまで組み込んだものをつくっていただきたいという意見で終わらせていただきます。以上です。

議長 まあランドデザインに新しい行政システムを具体的にどこまで入れるかどうか、ちょっとそれは定かではありませんが。どうぞ。

遠藤（貴久）委員 すみません、新市の行政システムのあり方について検討を加えますというところなんですよ。

議長 いずれにしてもね、2つが1つになるわけですから、新しい行政システムはできるわけですよ。ですから、それはどういうものになるかっていうのが、具体的にどこまで合併協議会

で議論ができるのか。多分、具体的な部分については新しい新市が、恐らく当局と新しい議会で決めていくことになると思いますんでね。どこまで合併協議会できちっとした具体的なものまで決めていけるのかということがあります。

遠藤（貴久）委員 もしそういうことであれば、建設計画云々以前に、このグランドデザインの中にですね、先ほど言いましたような、いわゆるコミュニティをどういうふうにとらえていくのか。70万人という市になったときに、それを、先ほど私言いました、例えば区に分けてそれぞれの地域コミュニティで問題を解決していただくとか、この部分まで私はぜひ入れていただきたいということなんです、グランドデザインの中に。それが自治意識の向上というものにつながるであろうということです。

議長 はい、わかりました。

外側志津子委員（しずおか女性の会会長） 静岡女性の会の外側でございます。

フリートキングということだったので、2つほどちょっと感想を述べさせていただきます。

市民フォーラムの43人の方からの御意見を、私なりに読ませていただいて、そのとき感じたことなんですけれども、こんなにもそれぞれ、普段はあんまり言葉には出していないんだけど、友人同士はまた別でしょうけれども、でも、大きなところでこれほどの意見というのはあんまり出してない市民性があるんだろうけれども。本当に大多和委員もおっしゃいましたように、自分の住んでるところへの地域の思い入れがものすごいんだっていうことを、改めてこのフォーラムを読ませていただいたときに感じた感想でした。で、これがきょうそれぞれ御立派に発表になったわけなんですけれども、あしたからのタウンミーティングはもっと生の声が、しかも夜の7時からということですので、大勢の御参加があると期待しておりますが、もっとすごい生の意見が、反対意見も込めてバンバン出てくるんじゃないのかな、あるいは、いろんな御意見が。そういったところをお話を聞かせていただいて、真摯に受けとめながら、みんなで考えていったらいいなあと私は思ったわけです。

それからもう1つのほうがですね、6日の日に両方の市を、それぞれ視察させていただいたんですが、改めて自分が住んでいる市でもよくわからないところがいっぱいあったり、それから清水のほうへも視察をさせていただいて、いろんなことを思いましたけれども、大きく思ったことは、わかっていることではあったんだけど、ああ、両方の市の成り立ちってというのは全然違って

たんだなあと。要するに、静岡のほうは地場産業という、同じ産業であっても地場産業、あるいは城下町、そういったところから出発していて、清水のほうはやはり国際港の清水港、そこを拠点にしている、市が大きく発展してきたとこだったんだなあとというふうに思ったんですね。ですからその両方を、いわゆる1つの例で言うと、2頭立ての馬車を上手にこれを手綱引きをやっていくと、これはすごいところになるなあと。でも下手をやるととても大変になるなあとというような感想をものすごく抱きまして、まさに官民一体でなければという思いを強くしました。以上であります。

山本明久委員（静岡市議会議員） 静岡の山本です。

きょうの6人の方の発表の感想からちょっと入っていきたいと思うんですが、今述べられましたけれど、先ほどの中学生の方もそうですけど、地球に優しいまちしにてほしい。自然を守ってほしい。あるいは森林、地域経済、木材を守ってほしい。子どもやお年寄りに優しいまちにしてほしいという、非常にこういうまちであってほしいという願いが率直に聞けて、私非常によかったと思うんです。これはグランドデザイン策定のあの市民意識調査でも同じような傾向が出ているんですね。

これ前回も言わせてもらったんですが、静清地域の将来イメージとしてどれが適切かということで、上位から5番、5つを言いますと、自然環境を守る、安全なまち、生活環境を守る、保健福祉を充実する、そして清潔快適なまちと。これが、きょう発表された方もそうですし、多くの市民の方の共通の、将来こういうまちになってほしいという願いだと思うんですね。問題は、そういうまちづくりをするために合併が適切かどうかという判断は、ここでしないといけないと思うんです。合併の方向性を決めるのは、まあ10年度末ということで出ている以上、現在はその当然合併を前提にした議論ではないというのははっきりしているわけですが。

そこでちょっと、総研から出された、先ほど言ったそのグランドデザイン策定の調査の基礎調査の中で、両市の主要な課題として提起されているのは、今申しました市民の方がこういうまちをつくってほしいということとは大分違った内容で提起されているんです。

それから土地利用の高度化と、恐らく合併したらそういう、非常にわかりにくい産業の高度化とか都市機能の高次化とかっていうことで合併を多分イメージした中身で出されていると思うんですが、これではこの市民の方、合併がいいのかどうかという判断すらできないことだと思うんですね。

きょうせっかく市民の方から直接聞いて、あしたからのタウンミーティングでもそうですけれ

ど、本当にその市民が願ってるまちをつくるには、選択肢の1つとしてランドデザインが提起されるわけですけど、先ほど清水の織田さんもおっしゃってたように、それが合併しない場合とどう違うんだということの比較をすることが必要になってくる以上、市民が願ってる、こういうまちにしてほしいという、合併しないまちの発展の姿というのは、やはり同時に市民の方の検討材料として提供していく必要があるのではないかと。それが合併協議会の役割ではないかと、私自身はきょう市民の方の意見を聞いて強く思ったところです。きょうはとりあえず、以上しておきます。

片山卓委員(静岡市議会副議長) 山本さんに申しわけありませんが、私は全くそうは思いませんで、やはり合併協議会と名をつけながら、こうして協議会の場を設けているわけですから、それは無論合併の可否ということの議論を深めていくことは確かですけれども、合併をしなくても両市このままならば、それぞれの市の議会なり、それぞれのところで議論をすればいいことでありまして、ここでの議論の対象とはならないというふうに私は思います。

冒頭、北大路先生のお話含めて意見発表者、それよりも何よりも、このすべての方々の応募意見集の隅から隅まで拝見させていただいた中で、やはり今後分科会等をやっていくのには、ぜひ交通のネットワークということに対して非常に皆さん関心が高い。で、僕はこれがきっと軸になるだろう、これが一番説得力があるだろうというふうにして意を深めました。そういうことによって、やはりどこに住んでも住みよい、同じような便利さを共有できるまちというようなものが、皆さんに提示していくランドデザインの柱となっていくことは間違いないだろうというふうにして、我々思い込みが強いもんですから、そういうふうにいるわけでございますけれども。

ぜひそういったところを、民間でも、まあSSシティー協議会とか、人の集まるまちづくり市民会議とか、一生懸命、人の集まるまちづくり市民会議なんかにしても、SS協議会と一緒に千葉への視察に出、あるいは「ゆりかもめ」ができたといえそこに視察に行き、愛知県にリニアモーターの新しい交通システムがあるといえそれを見に行き、広島まで行きというふうにして、一生懸命研究している民間団体もありますので、そうしたところとよく今後協調しながら、交通政策、あるいは交通ネットワークについては、新交通でなければだめというようなものではありませんが、やはりレールを中心にした、環境に優しい、将来的にトータルコストで、このまちについて必ずプラスになるものということを考えて進めていただきたいということを申し上げておきたいと思います。

それから外側さんからのお話で、何かまとめのようになって悪いですけど、外側さんからの

話で、静岡・清水拝見させていただいて、本当にありがとうございました。勉強になりました。やはりあのコンテナヤードを見に行かせていただいて、ああ、清水すごいなっていうのを、実感をさせてもらったところでもあります。まだまだそういった面でいきますと、まあ、ナショナルのトレセンも拝見しましたけれども、もっともっとその清水の、庵原のほうも、小島のほうっていいでしょうか、いろんなところをよく拝見させていただく機会を得たいなと思っております。ぜひ、まあこれは個別でもいいかもしれませんけれども、そういった機会をつくっていただければありがたいというふうに思っているところでございますので、ぜひ清水の皆さんにしてみれば、静岡のいろんなところをもう少し見ていただければありがたいというふうに思います。以上です。

守永了俊委員（清水市社会福祉協議会副会長） 冒頭にね、井上委員さんのほうからお話がありましたこと、若干気になる点ですけどね。あそこの与野市や浦和、大宮を一度拝見させていただいて、大宮の市長さんからいろいろ話を聞きまして、そしてあそこの合併の進め方についてもいろいろ伺ったんですけども。あそこではやはり最初の段階でね、両市のどういう方が知りませんが、ある程度の大まかな話し合いがあって始まったようなように聞こえましたが、今回の私たちのこの話し合いの中には、そういう過程がなかったわけです。ましてこういうものができまして、両市の委員が集まってこうやっているわけですが。正直に申し上げて、静岡は47万、清水は24万、こういうもう都市規模が違いますよね。そういう点でね、清水の市民の方に、私たちは、両市のことをもちろん、静岡の市民のことも考えるわけですが、多くはやはり24万の清水市民をバックにしょってるといってのように私は感じているわけです。それで、こういう話し合いの結果がね、清水の市民に納得されなければならないわけです。その納得させることがなかなか私は難しいと思うんです。ですから、きれい事だけで言葉で連ねたものだけではいけないような感じがいたしましてね。そういう意味で、いろいろ清水市民の初めての話がこれから私たちのほうから出てくると思いますが、一つ大静岡市の委員の皆さん方は大きな襟度をもってね、清水市民の代表の言うことを聞いていただきたいと。私は先ほど来、ちょっと気になったもんですから、そのことを申し上げておきたいと思えます。

地方分権とかいろいろ言うておきまして、合併を促進するようになっておりますけども、あの中では人口が3,000だ5,000だというふうなところは、もっと合併して2万なり3万なりにしなさいよということであって、20万の市と40万の市が一緒になりなさいよということを行っているわけじゃないわけです。ですから、清水市民の中の気持ちとしてはね、いや、20万ありゃあ、

十分適当な規模じゃないかと、こういう市で運営をしていったほうがいいじゃないかという意見が非常に強いですよ、正直申し上げてね。そういう中での私たちの、1つの苦渋のようなものがありますのでね、一つ大襟度をもって、一つ私たちの意見も聞いていただきたいと。以上です。

井上委員 私の言い回しがちょっと悪かったかもしれませんが、そういう意見がね、この場で初めてこういう、皆さんまだ、特に議員の意見ばかりで多くて申しわけないんですけど、それ以外の方から、きょうの静岡新聞のようにああいう格好でぼっと載っちゃうじゃなくて、この場でそういうお話を聞きたいんですよ。ですから、私もつかかかのようにちょっと物を申し上げましたけど、ぜひね、静岡の委員も清水の委員も、本音のところでもその話をここで出さしてもらいたい、そういう意味でちょっと申し上げたもんですから、言葉が足りなくてすみません。よろしくをお願いします。

濱崎岩雄委員（清水市自治会連合会会長） 清水の濱崎と申します。

先ほど来いんなお話を伺いながら、また今ちょっと、ああ、この井上さん、新聞のこと言われたからまずいなあと思って、2、3回手を挙げさせていたんですけども。正直申し上げまして、先ほどからお話のように、県下でも2番、3番というまちが合併しようとしていることなので、なかなか大変だということが1つと、それから、大変だってというのは、問題を慎重にやらなきゃならないという意味ですけども。それで、24万市民というものがですね、あるいは考えによっては、知らないところから出ているんだってということも考えておく必要があると思うんです。確かに、問題は清水市のほうから出ましたけれども、期は熟したってというような話もしますけれども、一般の市民からいったら、あんまりそこまでいってなかったんだよってという話が、そこからは話を始めないと、大変なことが起きてくるんじゃないかなと。

で、きょううれしかったことは、グランドデザインについて、うちのほうのこの場でも御説明いただきましたし、それから事務局のほうから、うちの事務局のほうからもいろいろなことお手数煩わしておりますけれども、きょうの北大路先生のお話を伺ってから、なお安心をしながらお聞きしているんですが、市民にとって、じゃ一体どんな感情があるかなってということももう1つ申し上げますと、いずれは合併するだろうってことは言っております。時々耳に入ります。そういうことの中でですね、きょうの皆さん方のこの発表を、これを見せていただきまして、随分進んでいるんだなっていうことが1つと、もう1つ、これからタウンミーティングに入っていくっていうときに、たくさん意見が出てくる。先ほどどなたかが言われましたんですが、静岡

の織田さんですか、合併後の違い、合併する以前と合併した後の違いっていうふうなものもって
いうふうなお話が出ておりましたんですけども、多分そんなことも出てくるんじゃないかなっ
てというようなことを考えておまして、まああまり空々しいたわ言ばかり言ってんなよって
いうような、田舎の言葉で出ますけども、そんなふうにとられているものが、これから徐々に真剣
味が入ってくるかなっていうことを、この場、先ほど議長さんがおっしゃったように、フリー
ーキングだからっていうことで弁解させていただきながら、本筋の入り口のような話をしゃべら
せていただきました。失礼しました。

議長 大分時間も経過をしておりますので、あとお1人、誰か発表されてない方は。

青島廣幸委員（静岡商工会議所副会頭） 私たちが10数年前に経済同友会を主宰してたとき
に、この合併をするべきじゃないかというような意見を立って、そしてそのいろいろな手だてを
講じてきたわけですけども、その基本は何だっていうと、このままでいいんですかっていうこ
となんですね。先ほど24ページにもあったように、静岡・清水、このいわゆる静岡県中部地域
が、何か遅れをとっていると、東西から見て。このままでいいんだろうかということ。それから、
経済活動や何かはもう全く垣根がないのに、何で行政だけ垣根があるんだと。それは広域行政と
かいろいろやり方はおありだと思いますけども、やっぱり他人の懐ろへ手を突っ込むようなこと
じゃなくて、自分のがまぐちを開くとかってというようなことが一番いいんじゃないだろうかと。
しかもこの至近距離に、24万47万という両市があると。これが合併すれば70万台の都市がで
きる、その力ってというのは非常なものになるんじゃないだろうかというようなことから、我々は
それを進言し、そしていろいろな、10年経ってこういう場が設けられたということは、まことに
素晴らしいことだと思うんです。

それで合併するしないはこれはこれからの議論で、まあ意思ですけども、私はこの中のグラ
ンドデザインというのでこう見ると、何かどっかへサッカー場をつくるんだとか、何々がどうで
何かをどっかへつくらなきゃいけないんだとか、まあそれは道路だとかそういうものは、社会的
資本として当然今後考えなきゃいけないことですけども。私はですから、この合併する目的
っていうは何だっていうことを考えたときに、その地域の充実発展であり、住民生活の向上、利便
じゃないかと。そこに立脚して検討されていくべきではないだろうかと。そして、やはりきょう
の発表者の中にも何人かの方おっしゃいましたけど、やっぱりその目的の1つに政令指定都市
になるんだと、向かっていくんだと、今すぐなれとは言いませんけど、向かっていくんだって

う大目標がなければならぬんじゃないかと。そこへいったらまた力がぐんとつくんじゃないだろうかと。

そして、今このままじゃいけないんじゃないかっていうふうな中で変化をさせることっていうことが一番大切じゃないんだらうかと。そこで、その見出していく、短期・中期・長期のいろんな視点を意識しながら、我々が検討していく必要があるんじゃないだろうかなと。それはもちろんデメリットもあると思います。けども、そのメリットを伸ばしながらデメリットはできるだけ小さくしていくというのが、今後の我々の責任かなと思っておりますので、どうぞその、目的は何だかっていうところ、また市民の生活の向上というのはどこから生まれ出るんだっていうことを、もう一度意識をしていただきたいと、そんなふうに感じたわけです。ありがとうございました。

議長 最後に石川さん。

石川たか子委員（静岡市教育委員会委員） 静岡市の石川です。

きょうのこのフォーラムでの感想なんですけど、まちづくり、新しくまちをつくらうという、必ず何かハード面から、例えば建物建てて道路つくって線路引いてという、そういうハード面から入る議論が多いんですけども、きょうの発言者の御発言内容を伺ってますと、もちろんそういった構造的なものがありますが、ソフト面のそういうサービスの充実、例えば生活者の視点を生かしてとか、賑やかな人の集まるまちづくり、そして安心して暮らしていけるまち、特に若い方、女性の方の御意見が非常に素直で、自分の住んでいるまちに対してこうなってほしいという、とても何かしっかり地に足のついたコンセプトのしっかりした御意見が多くて、大変参考になったと思います。大変おもしろい1時間半の発言でございました。

それで、そういった市民がまちをつくってくってというのは当たり前なことなんですけども、ここであすからのタウンミーティングについて一言要望なんですけど、きょう発言された方は、非常に市民として自立されている皆さんで、こういうふうに物を書いて、しかも発言したということは大変なことだったと思いますけども、そうでない方がほとんどだと思うんですね、住民の方。そういう場合に、ランドデザインを、じゃ、それぞれ一人一人市民の皆さん描いてくださいとか、合併はいいでしょうか悪いでしょうか、市民の皆さん判断していただきっていう前にですね、あすからのタウンミーティングなんかで、ぜひ私は行政の市長初め、助役さん、それから職員の皆さん、現在のもので、そういう両方の市の、財政情勢を初め現状とか、それから北大路先生お

っしゃってましたけども、時代の潮流の変化ですか、そういう世の中の流れだとか、それから国の施策がこういう方向に行っているとか、そういうことも判断材料を、行政側としてはっきり住民に説明をしっかりと、情報提供して、そして市民の人たちに協力を求めるところは、ここはぜひ皆さんお願いしますと、理解求めることは頭を下げてでも、行政の責任として私はやっていただく必要があるのではないかと、ちょっと考えましたので、この辺もまたよろしくをお願いします。違いますか。

議長 御意見として聞いておきます。

それでは、最後。

小野勇委員（清水市議会議員） 清水の市議会の小野です。

きょうの私が市民フォーラムで、いろいろな方々の御意見を伺ってですね、非常に関心の深さというですか、その視点というですか、都市ビジョンの。そういう中で一番まあ私自身が、前回のときにも都市ビジョンを考えるにおいて、東静岡地区を1つの大きな拠点として進めるべきではないかと、そこからスタートだよと、このようなことを第6回で言わせていただきましたが、きょうのいろいろと御意見を伺っている中で、この東静岡地区を中心とした、これからのランドデザインの策定に向けてのあり方、こういうものが非常に力強く聞かれました。まあ多くの方もそういうふうに思った方がいらっしゃると思いますが、そういう中で、私は今後この東静岡駅を中心とした、やっぱり都市像というものが非常に大事な部分になるということ、ずっと思っているわけです。

それは1つの根拠としまして、やはり東静岡駅はですね、50.5ヘクタールの土地区画整理事業が、新都市整備、交通、要するに鉄道部分を抜かした、まあ50.5ヘクタールあるわけでございますが、この50.5ヘクタールっていうのを、静岡駅を中心とした、現在の静岡市さんがこれからいろいろと都市開発をしていこうという駅周辺、そういう中で御計画されているということをお伺いしてありますが。そういう中で、この50.5ヘクタールっていうのは、静岡を中心とした場合に、駿府城というですか、駿府の辺、それから呉服町から七間町の辺、こういうものがすっぽりはまっていく、そのくらいの膨大な面積でございます。そういう中で、これからの、先ほどから出ています交通アクセスを、東西はできてるけれども、南北をしていくんだと、モノレールはどうだと、新交通システムはどうだと。清水港のこれからのあり方としての物流の方向性はどうだと。どうやって、第二東名高速道路が18年にできていく、そういう中で次に中部横断道路ができて

いく。こういう中でこれからの清水市の大きな特性である、港を中心とした物流をどうやって流していくか、環状線をどうやって走らせていくか、こういうものも、1つのこの東駅を中心としたこの交通システムというものを考える地域であるなど。また先ほども新幹線がどうだとかということもございましたが、そういうのもできる地域だなど。で、1つの大きなこれからの中心としていくものののみ込むだけのスペースも十分に備わっているという中で、地の利もいいですし、そういう中で、今後そういうようなことを進めていく必要があるじゃないかなということ、きょうの意見発表を聞きまして、つくづく思いました。

もう1つ、ちょっと言わせていただきますが、先ほどからいろいろと清水側の委員さんからいろいろなお話がございます。私もいろいろと皆さんの御意見を伺う中で、また市民の方々と、私もタウンミーティングにあしたから出させていただきますが、そういう中でいろいろと今後出てくるでしょうけども、私たちがいろいろな方々、市民の方々と膝詰めでお話をしていると、やはりなかなかその新グランドデザインというものに対する考え方として、私たち清水市として、静岡市として、どういう両市になっていくんだ、こういう議論が出てまいります。そのときに私たちは、先ほども鈴木さんもお話になりましたし、いろいろと話をしましたが、そういう中で、やはり私は一番大事なことは、市民の方によくわかっていただくために、ビジュアル新市というのですか。要するに我がまちはこのふうになっていくっていう、まあ、図式的っていうのですか、こういうものがこれから新グランドデザインをつくっていくものの中ではっきりと示されていけば、これから行われていくきょうの市民フォーラム、そしてタウンミーティング、こういう中のものを総合的に検討し、またそういうものを皆さんに御提示をしていく中で、本当の市民の理解も得られていくんじゃないかなということ、私はずっと思っております。

そういうことで、あしたからのタウンミーティングに期待しながら、私の意見とさせていただきます。ありがとうございました。

議長 どうもありがとうございました。

それでは、本日の議論、たくさんいただきましたけど、事務局で整理をさせていただきます。また繰り返しもなりますが、今お話ありましたように、あすから開催いたしますタウンミーティングでの議論も踏まえまして、次回の第8回協議会では、新市の都市ビジョン構築のための、一応のまとめの議論を行いたいと思いますので、また次回も御参加をお願いしたいというふうに思います。

事務局から何かありますか。

< 議事 ~ その他・閉会 >

事務局 それでは、事務局のほうから 3 点ほどお願いと御報告のほうを申し上げさせていただきます。

まず最初に、分科会に関します調査ということで、お手元のほうに分科会に関します調査票というのが配付をさせていただいております。これは、次回の第 8 回協議会で、分科会の設置につきまして委員の皆さん方に御協議をお願いをしたいということを考えております。そのため、あらかじめ委員の皆さんのお考えをお伺いをしていこうということで、今回調査票ということでお配りをさせていただいておりますので、この調査票に御記入をいただきまして、7 月の 20 日火曜日までに事務局のほうに御提出をしていただければありがたいというふうに思っております。

それから次に御報告でございますが、去る 7 月 3 日、火曜日ですが、両市の主要施設の視察調査を実施をさせていただきましたが、午前中 19 名、午後 21 名の委員の皆さん方に御参加をいただきまして、本当にありがとうございました。また来る 7 月の 19 日、これは月曜日でございますが、堺市への視察調査を計画をいたしております。実施要領につきましてはお手元にお配りをさせていただきますので、参加される委員の皆さん方には、早朝で申しわけございませんが、朝 8 時 30 分に J R 静岡駅新幹線の改札口の前に御集合をいただきたいというふうに思います。

また、あすからはいよいよタウンミーティングが開催をされます。これにつきましても実施要領を既に配付をさせていただいておりますので、委員の皆様方には、御担当をしていただく日をよく御確認をいただきまして、会場のほうに定刻にお集まりいただきますようお願い申し上げます。

最後に、次回の会議でございますが、今回は 8 月の 11 日水曜日でございます。この回だけ清水市のホテルサンルート清水に会場が変わりますので、清水市のホテルサンルート清水で会議を午後 1 時半から開催をいたしますので、お間違えのないよう、よろしくお願い申し上げます。

事務局からは以上でございます。

議長 今回の事務局の報告に関しましては何か御質問等がありましたらお願いします。はい、どうぞ。

前田豊委員(静岡市議会議員) 分科会の件なんですが、前回でしたか前々回でしたか、ちょっ

とその案のようなものが、前回でしたか、ございましたね。ですから、それをということじゃなくて、ちょっと叩き台にしたいような気もするものですから、御提示いただければありがたいんですけれども。

議長 ああ、前回の事務局から出した案ですか。

事務局 それでは事務局のほうから、前回私どものほうで、叩き台ということで3つの分科会の案をお示しをさせていただいております。この案につきましてはきょう委員の皆さんお帰りの際にお手元のほうにお渡しをさせていただきますので、どうぞよろしく願いを申し上げます。

議長 はい、参考にさせていただければと思います。

ほかに何かございますか。

3時間の長きにわたりましてありがとうございました。ないようでしたら、以上で第7回目の合併協議会の議事を閉じさせていただきます。ありがとうございました。

事務局 本日は長時間にわたり、まことにありがとうございました。これをもちまして本日の協議会を閉会をさせていただきます。